

賛同・許容・傍観された自民党政治
オンライン付録

浅野良成

2024年3月26日

目次

序章	2010年代の自民党政治をめぐる謎	1
1	1960年代の有権者の外交・安全保障観	1
	1.1 分析に使用した質問の詳細	1
	1.2 クラスごとの特徴	3
第1章	自民党議員の政策位置	9
1	Wordfish モデルを用いた位置推定の問題点	9
2	カテゴリカル因子分析の詳細	10
3	選挙制度改革の効果の詳細	11
第2章	有権者から見た自民党の位置	13
1	争点ごとの政党の位置認識の詳細	13
2	項目反応理論の段階反応モデルの詳細	14
第3章	右派層からの賛同	17
1	回帰分析に使用した変数の定義	17
	1.1 サーベイ実験	17
	1.2 JESV 調査	19
	1.3 明るい選挙推進協会の意識調査	21
2	サーベイ実験における実験群ごとの記述統計	23
3	回帰分析の結果の詳細	24
	3.1 サーベイ実験	24

	3.2	JESV 調査	26
	3.3	明るい選挙推進協会の意識調査	27
4		ロジスティック回帰分析による推定結果	30
第 4 章		自民党との乖離の許容	31
1		コンジョイント実験の分析結果の補足	31
2		回帰分析に使用した質問	32
	2.1	東大・朝日調査	32
	2.2	2020 年独自調査	35
3		項目反応理論による推定結果の詳細	39
	3.1	対外的脅威の認知	39
	3.2	イデオロギー的な政策位置の認識	40
4		回帰分析の結果の詳細	40
	4.1	東大・朝日調査	40
	4.2	2020 年独自調査	42
第 5 章		中道層の傍観	43
1		回帰分析の結果の詳細	44
	1.1	東大・朝日調査	44
	1.2	JES 調査	46
第 6 章		人事パターンの変容	51
1		部会ごとの自民党議員の記述統計	51
2		常任委員会ごとの自民党議員の記述統計	52
3		回帰分析の結果の詳細	55
	3.1	自民党議員の部会活動	55
	3.2	自民党議員の国会内活動	57
4		混合効果ロジスティック回帰モデルでの検証	59
第 7 章		政務三役に表れるバランス感覚	61
1		回帰分析の結果の詳細	61

1.1	自民政権の政務三役	61
1.2	民主党政権の政務三役	63
1.3	民主党議員の国会内活動	64
2	混合効果モデルでの検証	65

序章 2010年代の自民党政治をめぐる謎

1 1960年代の有権者の外交・安全保障観

1.1 分析に使用した質問の詳細

序章で分析した1967年ミシガン調査は、第31回衆院選の前後に実施された全国規模のパネル調査である。ただし序章の分析には衆院選後の回答だけを使っている。以下では、分析に用いた10項目の質問文と回答の選択肢を示す。

- **核兵器の保有（問 36）**

原爆や水爆について、あなたの考えは次のどれに近いですか。

1. 日本は絶対に核兵器を持つてはいけない
3. 時と場合によるから、一概に言えない
5. そのうちに、日本も核兵器を持つべきだ

- **中国との距離感（問 39）**

日本と中共との関係はどうですか。もっと親しくすべきだと思いますか。それとも大体今ぐらいが良いと思いますか。

1. もっと親しく
5. 今ぐらい

- **憲法改正（問 41）**

今の日本の憲法は変えた方が良いと思いますか。それとも今のままで

良いと良いと思いますか。

1. 変える
5. 今のまま

● **自衛隊の維持（問 43）**

自衛隊の方はどうですか。今の様にあっても良いと思いますか。それともなくしてしまった方が良いと良いと思いますか。

1. あっても良い
5. なくす

● **徴兵制（問 44）**

そのうち徴兵制をしなくてはいいと思いますか。それともそんな事はしない方がいいと思いますか。

1. しく
5. しかない

● **ソ連との距離感（問 46）**

日本とソ連との関係はどうですか。もっと親しくすべきだと思いますか。それとも大体今ぐらいで良いと思いますか。

1. もっと親しく
5. 今ぐらい

● **アメリカとの距離感（問 51）**

日本とアメリカとの関係はどうですか。もっと親しくすべきだと思いますか。それとも大体今ぐらいで良いと思いますか。

1. もっと親しく
5. 今ぐらい

● **侵略された際の武力行使（問 53）**

万が一、日本が外国から攻められた時、武器をとって日本を守るべきだ

と思いますか。それとも抵抗しないで降伏すべきだと思いますか。

1. 守る
5. 降伏する

● **日米間の防衛協力（問 54）**

日本とアメリカの防衛のとりきめはどうですか。もっと強めるべきだと思いますか、それとももっと弱めるべきか、或いは廃止すべきだと思いますか。

1. 強める
2. 今のまま
3. 弱める
4. 廃止

● **外国軍の在日基地（問 56）**

一般に外国の軍事基地がある事は良い事だと思いますか。それとも悪いことだと思いますか。

1. 良い
3. いちがいに云えない
5. 悪い

1.2 クラスごとの特徴

本文では、ミシガン調査に潜在クラスモデルを当てはめて、1960年代の日本人の外交・安全保障観を4つのグループに分類した。潜在クラス分析の結果、「改憲・再軍備・自主防衛」路線（クラス1）が6.34%、「日米安保・軽武装」路線（クラス2）が53.40%、「反米・非武装中立」路線（クラス3）が13.65%、「協調外交」路線（クラス4）が26.61%の比率であった。以下では、潜在クラス分析で析出されたそれぞれの外交・安全保障観がどのような日本人に共有されていたのかを確認する。

表 A.1: 外交・安全保障観ごとの社会的属性

	クラス 1 N = 111	クラス 2 N = 935	クラス 3 N = 239	クラス 4 N = 466
女性比率	33.3%	60.6%	39.3%	44.0%
平均年齢	49.5	40.7	33.5	39.2
世代				
14～19 歳	1.8%	6.2%	12.6%	10.3%
20～36 歳	23.4%	39.2%	51.9%	37.3%
37～51 歳	21.6%	28.1%	25.5%	29.6%
52 歳以上	53.2%	26.6%	10.0%	22.7%
教育レベル				
小学校	50.5%	35.2%	17.2%	30.7%
中学校	18.9%	18.5%	12.6%	18.5%
高等学校	13.5%	26.3%	30.1%	29.0%
専門学校・短大など	7.2%	5.3%	8.4%	4.9%
大学	5.4%	4.0%	15.5%	5.6%
その他・分からない	4.5%	10.7%	16.3%	11.4%

注：ミシガン調査（1967年）に基づいて筆者作成。

表 A.1 には、回答者の女性比率・平均年齢と世代・教育レベルをクラス別に集計した。まず、女性比率は多くの項目で現状維持を志向するクラス 2 で高い。残りの 3 つのクラスはいずれも女性比率が 5 割を下回っている。憲法改正や日米間の防衛協力に最も賛成しやすいクラス 1 は特に女性比率が低い。なお、有効回答者全体で見た女性比率は 51.5 % である。1967 年当時の日本人の外交・安全保障観は、性別による違いが大きかったようである。

年齢については、再軍備や改憲など戦前回帰の政策選好を持ちやすいクラス 1 が最も高齢で、通説的な左派／革新イデオロギーに近い考え方を持つクラス 3 が最も若い。クラス 1 は 52 歳以上の回答者が過半数を占めており、他のク

ラスに比べてかなり高齢層に偏っている。また、教育レベルは回答者が最後に出た学校を意味するが、当時の日本は年齢と教育レベルで負の相関関係が強く、各クラスの特徴は年齢構成比の違いを反映している。小学校卒の比率は平均年齢の高いクラス1で、逆に大学卒の比率は平均年齢の低いクラス3で多い。クラス2とクラス4は対共産圏外交への立場が異なるが、年齢や教育レベルの構成では似ている。なお、ミシガン調査は選挙権を得た時期によって、回答者の世代をコーディングしている。36歳は日本が主権を回復した1951年、51歳は二・二六事件が発生して軍部の発言権が増した1936年に選挙権を得た人となる。19歳以下は調査時点で選挙権を持っていない。また、ミシガン調査には旧制学校を卒業した回答者も多いが、各クラスの特徴を捉えやすいように、表A.1では新制学校での位置づけに読み替えて集計した*1。

続いて、表A.2には回答者の党派性に関わる質問を集計した。政党に対する好感度は、1967年衆院選前に実施された調査での回答を集計している。また、公開されているデータでは1が「好き」、5が「嫌い」を示していたが、表A.2では値を反転させた上で平均値を算出している。なお、ミシガン調査には回答者の政党帰属意識を尋ねた項目も存在するが、今日の政党支持質問とは表現が異なり、解釈に留意を要するため取り上げない*2。

まず、クラス1では自民党への好感度が高く、実際の投票先を見ても自民党を選んだ人が過半数を超えている。対照的に、クラス3の回答者は社会党への好感度と投票率が高い。共産党への好感度や投票率はいずれのクラスでも低いが、相対的にクラス3で高いことから、クラス3は左派／革新政党を支

*1 旧制学校と新制学校の対照は、筆者が独自に定義したわけではなく、ミシガン調査の調査チームが教育レベル変数としてコーディング・ルールを作成していた。国民学校や尋常小学校は新制小学校、青年学校や実業学校は新制中学校、旧制中学校または高等女学校は新制高等学校、教習所や師範学校、高等学校、予科などは新制における専門学校や短大として処理されている。

*2 ミシガン調査では、「大ざっぱに言って、あなたは自分を自民党だと思いますか、社会党だと思いますか。あるいはそれ以外ですか。」との質問文で政党帰属意識を尋ねている。これはアメリカでの質問文を直訳したものと解釈する向きもあるが、谷口(2012)は戦前に見られた「自分は政友会／民政党である」という用語法が参照された可能性を指摘している。ただし、調査チームがいずれの理由で質問文を作ったにせよ、当時の回答者に本問の意図がどのように伝わっていたのかは疑問が残る。

持しやすいと言えよう。回答者全体の多くを占めるクラス2とクラス4では、自民党への好感度が最も高いものの、社会党の数値も3(=「どちらとも言えない」)を超えている。しかし、投票先を見ると、クラス2とクラス4のいずれでも自民党が社会党を大きく上回っている。日米安保体制・自衛隊・憲法について現状を肯定していたクラス2とクラス4は、社会党を拒絶するわけではないものの、自民党の一強体制が続くことも肯定していたようである。

表 A.2: 外交・安全保障観ごとの党派性

	クラス1 N = 111	クラス2 N = 935	クラス3 N = 239	クラス4 N = 466
好感度の平均値				
対自民党	4.0	3.5	2.5	3.4
対社会党	2.7	3.2	3.8	3.3
対民社党	2.9	3.0	2.8	3.1
対公明党	1.7	1.9	1.9	2.1
対共産党	1.3	1.6	2.4	1.8
1967年衆院選の投票先				
自民党	62.2%	45.7%	16.3%	38.6%
社会党	14.4%	24.2%	43.9%	24.7%
民社党	2.7%	3.6%	6.7%	4.7%
公明党	4.5%	1.4%	1.3%	2.4%
共産党	0.0%	0.4%	5.4%	1.5%
無所属・棄権など	16.2%	24.7%	26.4%	28.1%

注：ミシガン調査（1967年）に基づいて筆者作成。

最後に、表 A.3 では回答者の左右イデオロギーに対する理解を整理した。ミシガン調査は、「政治でよく「右」とか「左」とか「まん中」とか言いますが、あなたはそんな事をお考えになったことがありますか」と質問している。この質問に「ある」と答えたか否かによって、左右イデオロギーの認知率を計

算した。いずれのクラスでも「ある」と答えた人は少数派である。ミシガン調査は「ある」と答えた人には、5点尺度の左右イデオロギー軸上における回答者自身と主要政党の位置づけも尋ねている。表 A.3 を見ると、クラス 1 は右寄り、クラス 3 は左寄りに回答者自身を置く傾向にある。しかし、クラス 3 を除く 3 つのクラスにおいて、自身のイデオロギー位置を「まん中」と答える人が最も多い。政党の位置は所属するクラスに関わらず、右から自民党・公明党・民社党・社会党・共産党の並びで認知されている*3。

表 A.3: 外交・安全保障観ごとのイデオロギー

	クラス 1 N = 111	クラス 2 N = 935	クラス 3 N = 239	クラス 4 N = 466
イデオロギー認知率	32.4%	20.8%	45.0%	27.7%
自身の位置認知				
左	0.0%	2.4%	18.4%	2.6%
やや左	6.7%	16.2%	36.7%	15.7%
まん中	46.7%	45.5%	34.7%	56.5%
やや右	20.0%	28.1%	9.2%	18.3%
右	26.7%	7.8%	1.0%	7.0%
主要政党の位置認知				
自民党	4.3	4.4	4.6	4.4
社会党	1.6	1.9	2.0	1.8
民社党	2.7	2.9	3.3	2.9
公明党	2.7	3.0	3.5	3.0
共産党	1.3	1.2	1.2	1.1

注：ミシガン調査（1967年）に基づいて筆者作成。

*3 表 A.3 では小数点第 2 位で四捨五入を行ったため、クラス 1 における民社党と公明党の位置認知が同じ数値を取っている。四捨五入を行う前の数値を見ると、クラス 1 でも公明党が民社党よりも右寄りに認知されている。

第 1 章 自民党議員の政策位置

1 Wordfish モデルを用いた位置推定の問題点

本文中では、Wordfish モデルを用いた位置推定の問題点を数式を使わずに指摘した。以下では、より厳密に理解したい読者のために Wordfish モデルを数式を用いて解説する。

Wordfish モデルは以下の式で表される。

$$y_{ij} \sim \text{Poisson}(\lambda_{ij})$$

$$\lambda_{ij} = \exp(\alpha_i + \psi_j + \beta_j \omega_i)$$

y_{ij} は候補者 i の選挙公報で単語 j が使用された回数、 λ_{ij} は候補者 i の選挙公報で単語 j が使用される回数の期待値を意味する。また、 α_i は候補者 i の固定効果（例えば、選挙公報中での総語数など）、 ψ_j は候補者に依らず、単語 j が一般的に使用される程度、 ω_i は候補者 i の位置、 β_j は候補者 i の位置が単語 j の使用回数に与える程度を示している。すなわち、候補者が選挙公報中である単語を使用する回数は、自分の政策位置と相関して確率的に決まることをモデル化している。

ここで問題になるのが、モデルから推定される ω が、候補者にとってのどのような「位置」を意味するのかである。Catalinac (2018) はイデオロギー位置を示すと認識しているが、それはモデルから当然導けるような解釈ではない。例えば、 ω は重視政策が地元利益志向か、国全体の利益志向かを示す軸であり、言及する政策分野の違いで使用する単語が異なることを意味するかもし

れない。また、Catalinac (2018) は選挙年ごとに個別の Wordfish モデルを推定しているため、年によって ω の意味が異なる可能性もある。

2 カテゴリーカル因子分析の詳細

本文中で説明しているように、東大・朝日調査の回答は政策分野ごとにカテゴリーカル因子分析によって 1 次元の政策対立軸に統合した。以下では、本文中で省略したカテゴリーカル因子分析の結果を示す。

表 A.4: 外交・安全保障分野の因子負荷量

	因子負荷量
防衛力強化	0.925
先制攻撃の容認	0.922
北朝鮮への圧力	0.918
集団的自衛権の容認	0.924
因子寄与	3.403
因子寄与率	0.851

注：2003 年の東大・朝日候補者調査に基づく推定結果。

表 A.5: 経済分野の因子負荷量

	因子負荷量
雇用確保のための公共事業	0.926
景気対策としての財政出動	0.437
因子寄与	1.047
因子寄与率	0.524

注：2003 年の東大・朝日候補者調査に基づく推定結果。

3 選挙制度改革の効果の詳細

表 A.6: 選挙制度改革が候補者間の政策距離に与えた効果

	外交・安全保障		経済	
	全候補者	二大政党	全候補者	二大政党
切片	0.55 *** [0.47, 0.63]	0.40 *** [0.30, 0.51]	0.19 *** [0.08, 0.30]	0.20 * [0.00, 0.40]
選挙制度改革後	0.44 *** [0.39, 0.49]	-0.03 [-0.09, 0.02]	0.52 *** [0.48, 0.57]	0.56 *** [0.50, 0.62]
選挙区数	2754	2294	2753	2293

注：括弧内は 95 % 信頼区間。+p<0.1; *p<0.05; **p<0.01; ***p<0.001

第 2 章 有権者から見た自民党の位置

1 争点ごとの政党の位置認識の詳細

表 A.7: 自民党の政策位置に対する認識の違い

	集団的自衛権の容認	財政再建より景気対策	地方への補助金
切片	3.17 *** [3.09, 3.24]	2.96 *** [2.86, 3.06]	2.50 *** [2.38, 2.63]
年齢層	0.08 *** [0.07, 0.09]	0.07 *** [0.05, 0.09]	0.06 *** [0.04, 0.08]
大学卒	0.11 *** [0.07, 0.15]	0.13 *** [0.08, 0.19]	0.07 * [0.00, 0.14]
政治関心	0.14 *** [0.11, 0.17]	0.12 *** [0.07, 0.16]	0.06 * [0.01, 0.11]
自民党への好感度	-0.02 *** [-0.03, -0.01]	0.00 [-0.01, 0.02]	0.02 ** [0.00, 0.03]
政策選好の強度	0.20 *** [0.16, 0.24]	0.11 *** [0.05, 0.17]	0.02 [-0.05, 0.10]
回答者数	2589	2584	2542
R^2	0.167	0.064	0.024
R^2 Adj.	0.165	0.062	0.022

注：2013 年参院選後の JESV を用いて分析。括弧内は 95 %信頼区間。+ $p < 0.1$; * $p < 0.05$;

** $p < 0.01$; *** $p < 0.001$

表 A.8: 政党間の政策距離に対する認識の違い

	集团的自衛権の問題	財政再建か景気対策か	地方への補助金の問題
切片	1.18 *** [1.08, 1.27]	0.96 *** [0.85, 1.06]	0.78 *** [0.67, 0.89]
年齢層	0.13 *** [0.11, 0.15]	0.11 *** [0.09, 0.14]	0.09 *** [0.06, 0.11]
大学卒	0.22 *** [0.15, 0.28]	0.16 *** [0.08, 0.23]	0.13 ** [0.05, 0.20]
政治関心	0.31 *** [0.26, 0.35]	0.30 *** [0.24, 0.35]	0.30 *** [0.24, 0.35]
政策選好の強度	0.37 *** [0.30, 0.43]	0.20 *** [0.13, 0.28]	0.36 *** [0.28, 0.45]
回答者数	2522	2503	2474
R^2	0.220	0.128	0.128
R^2 Adj.	0.219	0.127	0.126

注: 2013年参院選後の JESV を用いて分析。括弧内は 95%信頼区間。+ $p < 0.1$; * $p < 0.05$;
** $p < 0.01$; *** $p < 0.001$

2 項目反応理論の段階反応モデルの詳細

第2章では、有権者による政党の位置認識の推移を検討すべく、2000年代以降の JES データにおける争点態度質問を項目反応理論の段階反応モデルによって分析した。表 A.9 は、2012年衆院選直後に実施された JESV 調査に項目反応理論の段階反応モデルを当てはめた結果である。項目識別力の絶対値が大きい争点ほど、有権者の信念体系をより強く規定していることを意味する。項目識別力の数値は外交・安全保障に関わる争点ほど大きく、反対に経済的な争点ほど小さい。すなわち、推定された主要政党の対立構造は外交・安全保障争点を中心とする左右イデオロギー軸として捉えられる。

表 A.9: 項目母数の推定結果

質問番号	争点	項目識別力	項目困難度		
			β_1	β_2	β_3
Q9	集团的自衛権の容認	2.68	-1.607	1.103	3.535
Q13	憲法改正	1.62	-1.154	0.832	2.568
Q15	普天間基地の移設	1.12	-1.434	0.319	2.057
Q11	原発の再稼働	1.05	-1.809	-0.474	1.115
Q8	財政再建か景気対策か	0.66	-0.774	0.983	2.705
Q14	公的年金制度の維持	-0.15	-2.770	-1.088	1.294
Q10	福祉充実か減税か	0.14	-1.032	0.615	2.254
Q16	自由競争による格差の問題	0.06	-1.331	0.201	2.242
Q12	地方への補助金	0.03	-1.312	0.332	2.073

注：2012 年衆院選後の JESV に基づく推定結果。項目識別力の絶対値が大きい順番に争点を並べている。

第 3 章 右派層からの賛同

1 回帰分析に使用した変数の定義

1.1 サーベイ実験

サーベイ実験は、2019年10月8日18時30分から2019年10月15日11時50分の期間に、楽天インサイトのモニター22355人を対象にアンケートを配信した。最終的には1412人から有効回答を得ている。ただし、実際の分析では三浦・小林(2016)が議論する省力回答者(satisficer)を除去したため、最終的に分析に使ったのは1306人分の有効回答である。なお、有効回答者は居住地(都道府県)、性別、年齢の人口比に応じて、属性ごとに回答者数の上限を割り付けている。分析に使用した各変数の定義は以下の通り。

(結果変数)

- 争点重要度

「いま衆議院選挙があった場合、あなたが投票先を決めるときに最も重視する争点はどれですか。また、2番目・3番目はどうですか。それぞれ1つずつお選びください。」「あなたご自身にとって、最も重要だと思う争点はどれですか。また、2番目・3番目はどうですか。それぞれ1つずつお選びください。」「日本にとって、最も重要だと思う争点はどれですか。また、2番目・3番目はどうですか。それぞれ1つずつお選びください。」という3つの質問文を用意して、回答者にランダムに1つを表示した。回答は択一式とし、「外交・安全保障」「景気・雇用」

「財政再建」「教育・子育て」「年金・医療・介護」「憲法（護憲・改憲）」「震災復興・防災」「原発エネルギー政策」「その他」「重視する争点はない」のいずれかから選択してもらった。本書では「外交・安全保障」と「景気・雇用」のそれぞれについて、最も重視すれば3、2番目に重視すれば2、3番目に重視すれば1、選択されなければ0をコーディングした。

(説明変数)

- **日本の防衛力強化への争点態度**

「日本の防衛力をもっと強化すべきだ」との意見に対して、「賛成」「どちらかと言えば賛成」「どちらとも言えない」「どちらかと言えば反対」「反対」の中から、回答者自身の態度を選択してもらった。意見強度は「2 = 賛成か反対と回答」「1 = やや賛成か、やや反対と回答」「0 = どちらとも言えないと回答」の3点尺度によって定義した。

- **対韓外交への評価**

「安倍政権による韓国への対応は評価できる」との意見に対して、「賛成」「どちらかと言えば賛成」「どちらとも言えない」「どちらかと言えば反対」「反対」の中から、回答者自身の態度を選択してもらった。意見強度は「2 = 賛成か反対と回答」「1 = やや賛成か、やや反対と回答」「0 = どちらとも言えないと回答」の3点尺度によって定義した。

- **公共事業による雇用確保への争点態度**

「公共事業による雇用確保は必要だ」との意見に対して、「賛成」「どちらかと言えば賛成」「どちらとも言えない」「どちらかと言えば反対」「反対」の中から、回答者自身の態度を選択してもらった。意見強度は「2 = 賛成か反対と回答」「1 = やや賛成か、やや反対と回答」「0 = どちらとも言えないと回答」の3点尺度によって定義した。

- **景気対策への評価**

「日本は5年前よりも景気が良くなっている」との意見に対して、「賛成」「どちらかと言えば賛成」「どちらとも言えない」「どちらかと言えば反対」「反対」の中から、回答者自身の態度を選択してもらった。意

見強度は「2 = 賛成か反対と回答」「1 = やや賛成か、やや反対と回答」「0 = どちらとも言えないと回答」の3点尺度によって定義した。

(統制変数)

- **女性ダミー**

「あなたの性別をお答えください」という質問への回答から男性を0、女性を1とコーディングした。

- **年齢層**

「現在の年齢はおいくつですか。」という質問への回答から10～20歳代を1、30歳代を2、40歳代を3、50歳代を4、60歳代以上を5とコーディングした。

- **大学卒**

「あなたが最後に在籍した（または現在、在籍している）学校はこの中のどれにあたりますか。」という質問への回答から小学校・中学校、高校、短大・高専・専門学校を0、大学・大学院を1とコーディングした。

1.2 JESV 調査

第3章では、2016年参院選の前後に実施されたJESV調査を分析した。この調査は参院選前に2573人分、参院選後に2218人分の有効回答を集めた全国規模の郵送パネル調査である。分析に使用した各変数の定義は以下の通り。
(結果変数)

- **争点重要度（選挙前 Q36）**

「こんどの選挙に際して、あなたが最も重視する政策はどれでしょうか。また2番目、3番目はどうですか。」という質問に対して、「外交・安全保障」「財政・金融」「産業・景気」「農林漁業」「教育・子育て」「年金・医療」「雇用・就職」「治安」「環境」「政治・行政改革」「地方分権」「憲法（護憲・改憲）」「震災復興・防災」「社会資本（インフラ整備など）」「原発・エネルギー政策」「その他」のいずれかから回答を選ばせている。本書では「外交・安全保障」と「財政・金融」のそれぞれに

ついて、最も重視すれば3、2番目に重視すれば2、3番目に重視すれば1、選択されなければ0をコーディングした。

(説明変数)

- 日本の防衛力強化への争点態度 (選挙後 Q31-1)

「日本の防衛力をもっと強化すべきだ」との意見に対して、「賛成」「どちらかと言えば賛成」「どちらとも言えない」「どちらかと言えば反対」「反対」の中から、回答者自身の態度を選択させている。意見強度は「2 = 賛成か反対と回答」「1 = やや賛成か、やや反対と回答」「0 = どちらとも言えないと回答」の3点尺度によって定義した。

- 安倍政権の外交への評価 (選挙前 Q4-3)

「あなたは現時点までの安倍内閣についてどう思われますか。」という大問の中で「外交」という項目が用意され、「かなり良い」「やや良い」「どちらとも言えない」「やや悪い」「かなり悪い」の中から、回答者自身の評価を選択させている。意見強度は「2 = かなり良いか、かなり悪いと回答」「1 = やや良いか、やや悪いと回答」「0 = どちらとも言えないと回答」の3点尺度によって定義した。

- 社会福祉の充実への争点態度 (選挙後 Q31-2)

「年金や老人医療などの社会福祉は財政が苦しくても極力充実すべきだ」との意見に対して、「賛成」「どちらかと言えば賛成」「どちらとも言えない」「どちらかと言えば反対」「反対」の中から、回答者自身の態度を選択させている。意見強度は「2 = 賛成か反対と回答」「1 = やや賛成か、やや反対と回答」「0 = どちらとも言えないと回答」の3点尺度によって定義した。

- 安倍政権の財政政策への評価 (選挙前 Q4-1)

「あなたは現時点までの安倍内閣についてどう思われますか。」という大問の中で「財政政策」という項目が用意され、「かなり良い」「やや良い」「どちらとも言えない」「やや悪い」「かなり悪い」の中から、回答者自身の評価を選択させている。意見強度は「2 = かなり良いか、かなり悪いと回答」「1 = やや良いか、やや悪いと回答」「0 = どちらとも言

えないと回答」の3点尺度によって定義した。

(統制変数)

- **女性ダミー (F1)**

「あなたの性別をお答えください」という質問への回答から男性を0、女性を1とコーディングした。

- **年齢層 (F2)**

10～20歳代を1、30歳代を2、40歳代を3、50歳代を4、60歳代を5、70歳代以上を6とコーディングした。

- **大学卒 (F4)**

教育程度に基づいて中学・旧小・旧高小、高校・旧中学、短大・高専・専修学校を0、大学・大学院を1とコーディングした。

1.3 明るい選挙推進協会の意識調査

第3章の投票行動に関する分析には、2012年・2014年・2017年の衆院選後に「明るい選挙推進協会」(明推協)が実施した意識調査を用いている。いずれも郵送法で実施されており、2012年調査は2155人、2014年調査は2029人、2017年調査は2151人から有効回答を得ている。分析に使用した各変数の定義は以下の通り。

(結果変数)

- **政党か候補者個人か (2012年 Q4SQ2、2014年 Q10SQ2、2017年 Q10SQ3)**

「あなたは、小選挙区選挙で、政党の方を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。」という質問に対して、「政党を重くみて」「候補者個人を重くみて」「一概にいけない」から回答を選ばせている。本書では、「1= 候補者個人を重くみて」「2= 一概にいけない」「3= 政党を重くみて」で数値化した。値が大きくなるほど、政党本位な投票行動を行っていたことを意味する。

- **小選挙区での投票先 (2012年 Q4SQ5、2014年 Q10SQ5、2017**

年 Q10SQ6)

「小選挙区で投票したのは何党の人でしたか。」という質問に対して、「自由民主党」を選んでいれば1、それ以外の選択肢を選んでいれば0とコーディングした。ただし、「投票に行かなかった」や「わからない」を選んだ回答者には欠損値を与えて分析から除外している。

(説明変数)

- **外交・防衛の重視ダミー (2012年 Q6、2014年 Q12、2017年 Q12)**

「昨年〇月の衆院選では、どのような政策課題を考慮しましたか。あてはまるものを幾つでも選んで番号に〇をつけてください。」という質問に対して、「外交・防衛」を選んだ否かでコーディングした。

(統制変数)

- **女性ダミー (すべて F1)**

「あなたは男性ですか、女性ですか。」という質問への回答から男性を0、女性を1とコーディングした。

- **年齢層 (すべて F2)**

「あなたのお年は満でおいくつですか。」という質問への回答から10～20歳代を1、30歳代を2、40歳代を3、50歳代を4、60歳代を5、70歳代を6、80歳代以上を7とコーディングした。

- **大学卒 (すべて F3)**

「あなたが最後に在籍した(または現在在籍している)学校を、下記の中から1つ選んで番号に〇をつけてください。」という質問への回答から小学校・中学校卒、高校卒、短大・高専・専修学校卒を0、大学・大学院卒を1とコーディングした。

- **無党派層ダミー (2012年 Q15、2014年 Q25、2017年 Q26)**

「あなたはふだん何党を支持していらっしゃいますか」という質問に対して、「支持政党なし」か「わからない」を選んだ否かでコーディングした。

2 サーベイ実験における実験群ごとの記述統計

表 A.10: 実験群ごとの記述統計

	選挙での重視度 N = 413	あなたにとっての重視度 N = 424	日本にとっての重視度 N = 469
女性比率	55.0%	50.9%	53.7%
年齢層	3.60	3.69	3.50
大学卒比率	45.3%	45.8%	49.9%
防衛力強化			
賛成度	3.41	3.45	3.49
意見強度	0.91	0.90	0.95
対韓外交			
評価度	3.33	3.27	3.36
意見強度	0.86	0.92	0.96
公共事業			
賛成度	3.58	3.57	3.63
意見強度	0.86	0.82	0.86
景気対策			
評価度	2.43	2.44	2.49
意見強度	0.92	0.91	0.81

3 回帰分析の結果の詳細

3.1 サーベイ実験

表 A.11: 有権者が外交・安全保障を重視する要因

	選挙での重視度	あなたにとっての重視度	日本にとっての重視度
切片	-0.88 *** [-1.31, -0.44]	-0.53 * [-0.94, -0.12]	-0.71 ** [-1.17, -0.25]
女性	0.05 [-0.12, 0.22]	-0.20 * [-0.36, -0.03]	0.00 [-0.18, 0.19]
年齢層	0.04 [-0.02, 0.10]	0.03 [-0.03, 0.08]	0.05 [-0.01, 0.11]
大学卒	0.11 [-0.06, 0.29]	0.24 ** [0.08, 0.40]	0.08 [-0.10, 0.27]
防衛力強化への賛成度	0.11 ** [0.03, 0.19]	0.18 *** [0.09, 0.26]	0.18 *** [0.08, 0.27]
防衛力強化への意見強度	0.17 ** [0.06, 0.29]	0.11 + [-0.01, 0.22]	0.05 [-0.08, 0.18]
対韓外交への評価度	0.13 ** [0.05, 0.22]	0.05 [-0.02, 0.12]	0.13 ** [0.05, 0.21]
対韓外交への意見強度	0.22 *** [0.11, 0.33]	-0.01 [-0.12, 0.10]	0.00 [-0.12, 0.12]
回答者数	413	424	469
R^2	0.175	0.142	0.095
R^2 Adj.	0.160	0.127	0.082

注：浅野が実施したサーベイ実験を用いて分析。括弧内は 95 % 信頼区間。+ $p < 0.1$;

* $p < 0.05$; ** $p < 0.01$; *** $p < 0.001$

表 A.12: 有権者が景気・雇用を重視する要因

	選挙での重視度	あなたにとっての重視度	日本にとっての重視度
切片	1.03 ** [0.27, 1.79]	1.78 *** [1.04, 2.51]	1.16 ** [0.41, 1.91]
女性	-0.32 * [-0.56, -0.08]	-0.26 * [-0.48, -0.03]	-0.32 ** [-0.55, -0.09]
年齢層	-0.12 ** [-0.20, -0.03]	-0.18 *** [-0.25, -0.10]	-0.08 * [-0.16, -0.01]
大学卒	-0.10 [-0.34, 0.14]	-0.14 [-0.37, 0.08]	-0.11 [-0.34, 0.11]
公共事業への賛成度	0.12 + [-0.02, 0.27]	0.14 + [0.00, 0.29]	0.14 + [0.00, 0.29]
公共事業への意見強度	-0.04 [-0.24, 0.15]	-0.13 [-0.32, 0.06]	-0.16 + [-0.35, 0.02]
景気対策への評価度	0.07 [-0.06, 0.21]	-0.07 [-0.19, 0.06]	0.02 [-0.11, 0.16]
景気対策への意見強度	0.17 + [-0.01, 0.35]	0.03 [-0.15, 0.21]	0.07 [-0.11, 0.26]
回答者数	413	424	469
R^2	0.053	0.069	0.034
R^2 Adj.	0.036	0.053	0.019

注：浅野が実施したサーベイ実験を用いて分析。括弧内は 95 % 信頼区間。+ $p < 0.1$;

* $p < 0.05$; ** $p < 0.01$; *** $p < 0.001$

3.2 JESV 調査

表 A.13: 2016 年参院選における争点重視度の要因

外交・安全保障		財政・金融	
切片	-0.70 *** [-0.91, -0.50]	切片	1.39 *** [1.10, 1.69]
女性	0.01 [-0.07, 0.09]	女性	-0.10 + [-0.21, 0.00]
年齢層	0.04 *** [0.02, 0.07]	年齢層	-0.05 ** [-0.08, -0.02]
大学卒	0.12 ** [0.04, 0.20]	大学卒	0.07 [-0.04, 0.18]
防衛力強化への賛成度	0.12 *** [0.08, 0.17]	社会福祉充実への賛成度	-0.10 *** [-0.16, -0.04]
防衛力強化への意見強度	0.15 *** [0.09, 0.21]	社会福祉充実への意見強度	-0.04 [-0.12, 0.04]
安倍外交への評価度	0.07 *** [0.03, 0.11]	安倍財政への評価度	0.03 [-0.03, 0.09]
安倍外交への意見強度	0.25 *** [0.20, 0.31]	安倍財政への意見強度	0.05 [-0.03, 0.13]
回答者数	2185	回答者数	469
R^2	0.117	R^2	0.034
R^2 Adj.	0.115	R^2 Adj.	0.019

注：2016 年参院選前後の JESV を用いて分析。括弧内は 95 % 信頼区間。+ $p < 0.1$;

* $p < 0.05$; ** $p < 0.01$; *** $p < 0.001$

3.3 明るい選挙推進協会の意識調査

表 A.14: 政党本位な投票行動の要因（有権者全体）

	2012 年衆院選	2014 年衆院選	2017 年衆院選
切片	2.26 *** [2.10, 2.42]	2.49 *** [2.32, 2.66]	2.30 *** [2.13, 2.47]
女性	0.07 [-0.02, 0.16]	0.01 [-0.09, 0.11]	0.03 [-0.07, 0.13]
年齢層	-0.03 + [-0.06, 0.00]	-0.07 *** [-0.10, -0.04]	-0.05 ** [-0.08, -0.02]
大学卒	0.23 *** [0.13, 0.34]	0.02 [-0.10, 0.13]	0.23 *** [0.12, 0.34]
無党派層	-0.13 * [-0.22, -0.03]	-0.18 ** [-0.29, -0.07]	-0.18 ** [-0.28, -0.07]
外交・防衛の重視	0.16 ** [0.06, 0.26]	0.18 ** [0.06, 0.30]	0.16 ** [0.05, 0.26]
回答者数	1519	1285	1379
R^2	0.028	0.027	0.038
R^2 Adj.	0.025	0.023	0.035

注：明るい選挙推進協会の意識調査を用いて分析。括弧内は 95 % 信頼区間。+ $p < 0.1$;

* $p < 0.05$; ** $p < 0.01$; *** $p < 0.001$

表 A.15: 政党本位な投票行動の要因（自民党への投票者）

	2012 年衆院選	2014 年衆院選	2017 年衆院選
切片	2.36 *** [2.13, 2.60]	2.44 *** [2.20, 2.68]	2.36 *** [2.13, 2.59]
女性	0.07 [-0.06, 0.20]	-0.01 [-0.15, 0.13]	0.03 [-0.11, 0.17]
年齢層	-0.05 * [-0.09, 0.00]	-0.07 ** [-0.11, -0.02]	-0.07 *** [-0.11, -0.03]
大学卒	0.15 + [0.00, 0.31]	0.13 [-0.03, 0.29]	0.23 ** [0.07, 0.40]
無党派層	-0.20 * [-0.36, -0.05]	-0.16 + [-0.34, 0.03]	-0.25 ** [-0.43, -0.07]
外交・防衛の重視	0.27 *** [0.13, 0.40]	0.26 ** [0.09, 0.42]	0.28 *** [0.13, 0.43]
回答者数	727	629	651
R^2	0.043	0.043	0.071
R^2 Adj.	0.036	0.035	0.064

注：明るい選挙推進協会の意識調査を用いて分析。括弧内は 95 % 信頼区間。⁺p<0.1;

*p<0.05; **p<0.01; ***p<0.001

表 A.16: 外交・防衛の重視と自民党への投票

	2012 年衆院選	2014 年衆院選	2017 年衆院選
切片	0.54 *** [0.45, 0.63]	0.58 *** [0.48, 0.67]	0.69 *** [0.60, 0.78]
女性	-0.03 [-0.08, 0.02]	0.06 * [0.01, 0.12]	0.00 [-0.05, 0.06]
年齢層	0.00 [-0.02, 0.01]	-0.02 + [-0.03, 0.00]	-0.03 *** [-0.05, -0.01]
大学卒	-0.05 [-0.11, 0.01]	0.02 [-0.05, 0.09]	-0.05 [-0.11, 0.01]
無党派層	-0.16 *** [-0.21, -0.10]	-0.20 *** [-0.27, -0.14]	-0.24 *** [-0.30, -0.18]
外交・防衛の重視	0.17 *** [0.12, 0.23]	0.07 + [0.00, 0.14]	0.08 * [0.02, 0.14]
回答者数	1484	1249	1371
R^2	0.051	0.034	0.053
R^2 Adj.	0.048	0.030	0.050

注：明るい選挙推進協会の意識調査を用いて分析。本書の図 3.8 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。括弧内は 95 %信頼区間。+ $p < 0.1$;
* $p < 0.05$; ** $p < 0.01$; *** $p < 0.001$

4 ロジスティック回帰分析による推定結果

第3章では、外交・防衛政策の重視と自民党への投票確率の相関関係をOLSによる線形回帰分析で推定した。これは、限られた紙幅の中で回帰係数と効果量の解釈を簡便に示すためである。しかし、結果変数が2値（＝ある事象に当てはまるか否か）のときにはロジスティック回帰分析を使うことも多い。そこでロジスティック回帰モデルでの分析結果を表A.17に示しておく。表A.17を見ると、ロジスティック回帰分析であっても第3章の結論に変わりはないことが分かるだろう。

表 A.17: 外交・防衛の重視と自民党への投票（ロジスティック回帰）

	2012 年衆院選	2014 年衆院選	2017 年衆院選
切片	0.17 [-0.21, 0.55]	0.32 [-0.08, 0.72]	0.79 *** [0.40, 1.18]
女性	-0.14 [-0.35, 0.08]	0.26 * [0.02, 0.50]	0.01 [-0.22, 0.23]
年齢層	-0.02 [-0.09, 0.05]	-0.07 + [-0.14, 0.01]	-0.13 *** [-0.20, -0.06]
大学卒	-0.20 [-0.45, 0.06]	0.09 [-0.19, 0.36]	-0.21 [-0.47, 0.05]
無党派層	-0.66 *** [-0.89, -0.42]	-0.83 *** [-1.10, -0.55]	-1.00 *** [-1.26, -0.74]
外交・防衛の重視	0.72 *** [0.49, 0.95]	0.28 + [0.00, 0.57]	0.32 * [0.07, 0.58]
回答者数	1484	1249	1371
BIC	2023.5	1730.1	1869.3
対数尤度	-989.845	-843.655	-912.966

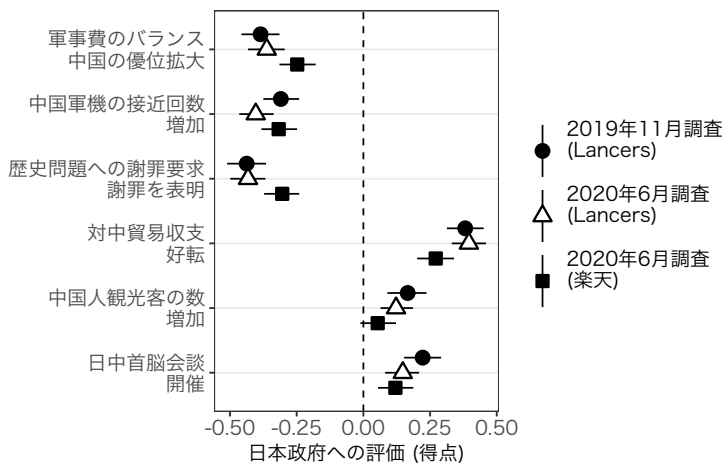
注：明るい選挙推進協会の意識調査を用いて分析。括弧内は 95 %信頼区間。⁺p<0.1;

*p<0.05; **p<0.01; ***p<0.001

第 4 章 自民党との乖離の許容

1 コンジョイント実験の分析結果の補足

図 A.1: 日中関係に対する評価の規定要因

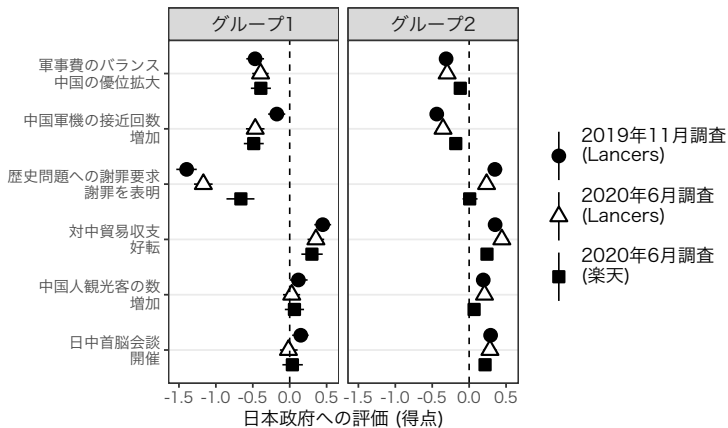


注：図中の印は AMCE、横線は 95 % 最高事後密度信用区間。横軸の値が大きいくほど、その水準が表示された日中関係への評価が上がる。

第 4 章で分析したコンジョイント実験では、仮想の日中関係を 2 通りずつ示した上で、(1) どちらの日中関係が実現したときに日本政府を評価するか

と、(2) それぞれの状況をどのくらい評価するかを7点満点で尋ねた。しかし、読者が分析結果を理解しやすいように、本文中では前者(=理想とする日中関係の選択)の分析結果だけを示した。オンライン付録では、後者の評価得点を分析した場合の結果も示しておく。図 A.1 や図 A.2 から分かるように、得点に注目しても第4章の主張と矛盾しない。

図 A.2: 日中関係に対する評価基準の多様性



注：図中の印は AMCE、横線は 95 % 最高事後密度信用区間。横軸の値が大きいくほど、その水準が表示された日中関係への評価が上がる。

2 回帰分析に使用した質問

2.1 東大・朝日調査

第4章では、2012年衆院選の直後に郵送法で実施された東大・朝日共同有権者調査を分析した。なお、有効回答者数は1900人(回収率63.3%)である。分析に使用した質問は以下の通り。

(結果変数)

● **感情温度 (問 22)**

あなたは、次の 1 から 16 の政党や政治家に対し、好意的な気持ちを持っていますか、それとも反感を持っていますか。好意も反感も持たないときは、下の「感情温度計」で 50 度としてください。好意的な気持ちがあれば、その強さに応じて 51 度から 100 度、また、反感を感じていれば、49 度から 0 度のどこかの数字で答えてください（小数点を用いず、0～100 の整数をお願いします）。

1. 民主党
2. 自民党
5. 日本維新の会
6. 共産党
10. 安倍晋三（自民党）

(説明変数)

● **中国・韓国・ロシアへの親近感 (問 32)**

あなたは、以下の各国に親しみを感じますか、それとも感じませんか。

- (2) 中国 (3) ロシア (4) 韓国
1. 親しみを感じる
2. どちらかと言えば親しみを感じる
3. どちらとも言えない
4. どちらかと言えば親しみを感じない
5. 親しみを感じない

(統制変数)

● **イデオロギー位置の自己認知 (問 32)**

政治の立場を「左」－「右」の言葉で表現することがよくあります。このものさしで、あなたの立場を示されるとしたらいかがですか。

0. 最も左
- 1.

- 2.
- 3.
- 4.
5. 中間
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
10. 最も右

● **主要政党のイデオロギー位置の認知（問 32）**

同様のものさしで、以下の人びとや団体の立場（平均）は、どこにあるとお感じになりますか。

(1) 民主党 (2) 自民党 (5) 日本維新の会 (6) 共産党

0. 最も左
- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
5. 中間
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
10. 最も右

● **性別（問 41）**

あなたは、男性ですか、女性ですか。

1. 男性
2. 女性

- **年齢層（問 42）**

あなたは、2012年12月16日現在では何十歳代ですか。

1. 20歳代
2. 30歳代
3. 40歳代
4. 50歳代
5. 60歳代
6. 70歳代以上

- **教育レベル（問 43）**

あなたの最終学歴を教えてください。

1. 小・中学校
2. 高校
3. 専門学校
4. 短期大学
5. 大学
6. 大学院

2.2 2020年独自調査

2020年独自調査は、2020年9月16日17時00分から2020年9月18日8時37分の期間に、楽天インサイトのモニターを対象にアンケートを配信した。最終的には1500人から有効回答を得ている。なお、有効回答者は居住地（都道府県）、性別、年齢の人口比に応じて、属性ごとに回答者数の上限を割り付けている。分析に使用した質問は以下の通り。

（結果変数）

- **感情温度**

あなたは次の組織や人物に対して、好意的な気持ちを持っていますか、

それとも反感を持っていますか。0を「強い反感」、5を「中立」、10を「強い好感」として、それぞれに0から10の間の整数で点数を付けてください。

1. 自由民主党
3. 立憲民主党
4. 共産党
5. 日本維新の会
7. 菅義偉

(説明変数)

● 対外的脅威の認知

日本が抱えるリスクについて、あなたのお考えをうかがいます。日本やお住まいの都道府県は、次にあげる恐れがないと思いますか。それともあると思いますか。

- (1) 尖閣諸島に中国軍が上陸する恐れ
 - (2) 北朝鮮が日本に向けて核ミサイルを発射する恐れ
 - (3) 日本の自衛隊が他国の軍隊から攻撃される恐れ
 - (4) 日本でテロが起きる恐れ
1. 恐れはない
 2. あまり恐れはない
 3. どちらとも言えない
 4. やや恐れがある
 5. 恐れがある

(統制変数)

● 日米安保体制に対する立ち位置

日米安保体制について、あなたのお考えはAとBのどちらに近いでしょうか。また、日本の主要な政党はAとBのどちらに近い立場を取っていると思いますか。

A：危機のときのアメリカによる協力を確実にするため、日米安保体制をもっと強化すべきだ。

B：日本と関係ない戦争に巻き込まれないように、日米安保体制の強化には慎重であるべきだ。

- (1) あなたご自身 (2) 自民党 (4) 立憲民主党 (5) 共産党
(6) 日本維新の会
1. A に近い
 2. どちらかと言えば A に近い
 3. どちらとも言えない
 4. どちらかと言えば B に近い
 5. B に近い

● **憲法 9 条に対する立ち位置**

憲法 9 条について、あなたのお考えは A と B のどちらに近いでしょうか。また、日本の主要な政党は A と B のどちらに近い立場を取っていると思いますか。

A：憲法 9 条を改正して、自衛権や国防軍を持つことを明記すべきである。

B：現在の憲法 9 条を変える必要はない。

- (1) あなたご自身 (2) 自民党 (4) 立憲民主党 (5) 共産党
(6) 日本維新の会
1. A に近い
 2. どちらかと言えば A に近い
 3. どちらとも言えない
 4. どちらかと言えば B に近い
 5. B に近い

● **日本の防衛力に対する立ち位置**

日本の防衛力について、あなたのお考えは A と B のどちらに近いでしょうか。また、日本の主要な政党は A と B のどちらに近い立場を取っていると思いますか。

A：日本は他国からの脅威に対応するために、防衛力を強化すべきであ

る。

B：日本は他国から脅威に思われないように、防衛力を抑えるべきである。

- (1) あなたご自身 (2) 自民党 (4) 立憲民主党 (5) 共産党
(6) 日本維新の会
1. A に近い
 2. どちらかと言えば A に近い
 3. どちらとも言えない
 4. どちらかと言えば B に近い
 5. B に近い

● 性別

あなたの性別をお答えください。

0. 男性
1. 女性

● 年齢層

現在の年齢はおいくつですか。

1. 10～20 代
2. 30 代
3. 40 代
4. 50 代
5. 60 代以上

● 教育レベル

あなたが最後に在籍した（または現在、在籍している）学校はこの中のどれにあたりますか。

1. 小学校 / 中学校
2. 高校
3. 短大 / 高専 / 専門学校

4. 大学 / 大学院

3 項目反応理論による推定結果の詳細

3.1 対外的脅威の認知

表 A.18: 項目母数の推定結果 (2012 年東大・朝日調査)

質問番号	争点	項目識別力	項目困難度			
			β_1	β_2	β_3	β_4
問 13-2	中国	3.12	-7.46	-4.68	-1.91	1.08
問 13-4	韓国	1.31	-3.47	-1.14	0.51	2.02
問 13-3	ロシア	1.23	-5.44	-3.15	-0.47	1.45

注：2012 年衆院選後の東大・朝日有権者調査に基づく推定結果。項目識別力の絶対値が大きい順番に並べている。

表 A.19: 項目母数の推定結果 (2020 年独自調査)

質問番号	争点	項目識別力	項目困難度			
			β_1	β_2	β_3	β_4
問 12-3	他国軍からの攻撃	2.23	-5.52	-2.56	-0.01	3.30
問 12-2	北朝鮮の核	1.70	-4.69	-2.48	-0.82	2.05
問 12-1	中国軍の尖閣上陸	1.67	-5.71	-3.51	-1.47	1.06
問 12-4	テロの発生	1.42	-4.61	-1.99	-0.20	2.39

注：2020 年の独自調査に基づく推定結果。項目識別力の絶対値が大きい順番に並べている。

3.2 イデオロギー的な政策位置の認識

表 A.20: 項目母数の推定結果 (2020 年独自調査)

質問番号	争点	項目識別力	項目困難度			
			β_1	β_2	β_3	β_4
問 14	憲法 9 条	2.55	-3.03	-1.54	0.60	2.72
問 15	日本の防衛力	2.22	-4.69	-2.96	-0.46	2.01
問 13	日米安保	1.64	-3.27	-1.11	0.54	2.55

注：2020 年の独自調査に基づく推定結果。項目識別力の絶対値が大きい順番に並べている。

4 回帰分析の結果の詳細

4.1 東大・朝日調査

表 A.21: 主要政党と安倍首相に対する好感度 (有権者全体)

	自民	安倍	民主	共産	維新
切片	54.54 ***	49.09 ***	33.49 ***	36.29 ***	58.97 ***
	[48.81, 60.27]	[43.05, 55.13]	[27.71, 39.28]	[30.71, 41.87]	[53.00, 64.94]
対外的脅威の認識	0.19	1.76 *	-3.08 ***	-3.54 ***	-0.30
	[-1.30, 1.67]	[0.20, 3.31]	[-4.52, -1.64]	[-5.01, -2.07]	[-1.83, 1.23]
イデオロギー距離の認識	-4.44 ***	-4.35 ***	-4.53 ***	-3.38 ***	-3.41 ***
	[-5.11, -3.78]	[-5.05, -3.66]	[-5.17, -3.89]	[-3.89, -2.86]	[-4.08, -2.74]
女性	-3.55 **	-3.29 *	0.03	3.83 **	0.18
	[-6.01, -1.10]	[-5.86, -0.71]	[-2.39, 2.46]	[1.41, 6.26]	[-2.37, 2.74]
年齢層	2.02 ***	2.82 ***	1.66 ***	0.06	-1.02 *
	[1.21, 2.84]	[1.96, 3.68]	[0.86, 2.45]	[-0.76, 0.87]	[-1.87, -0.17]
教育レベル	-0.80	-0.61	1.58 *	0.55	-0.11
	[-2.11, 0.50]	[-1.99, 0.76]	[0.31, 2.86]	[-0.73, 1.84]	[-1.49, 1.26]
回答者数	1371	1354	1351	1306	1324
R^2	0.134	0.135	0.159	0.173	0.076
R^2 Adj.	0.131	0.132	0.156	0.170	0.072

注：2012 年衆院選後の東大・朝日有権者調査を用いて分析。括弧内は 95 % 信頼区間。

+ p<0.1; * p<0.05; ** p<0.01; *** p<0.001

表 A.22: 主要政党と安倍首相に対する好感度
(外交・安保を重視した人)

	自民	安倍	民主	共産	維新
切片	65.18 *** [54.46, 75.89]	69.10 *** [57.61, 80.58]	33.92 *** [22.71, 45.14]	39.52 *** [28.50, 50.55]	62.64 *** [51.19, 74.08]
対外的脅威の認知	3.45 * [0.77, 6.13]	5.59 *** [2.73, 8.44]	-3.86 ** [-6.54, -1.17]	-3.24 * [-6.09, -0.38]	2.20 [-0.64, 5.03]
イデオロギー距離の認識	-4.49 *** [-5.95, -3.02]	-4.18 *** [-5.73, -2.62]	-5.20 *** [-6.32, -4.09]	-3.76 *** [-4.69, -2.83]	-3.39 *** [-4.86, -1.91]
女性	-1.72 [-6.57, 3.14]	0.80 [-4.36, 5.95]	-0.42 [-5.23, 4.38]	4.24 + [-0.64, 9.11]	2.97 [-2.12, 8.07]
年齢層	0.99 [-0.51, 2.50]	0.28 [-1.34, 1.90]	0.78 [-0.73, 2.28]	-0.01 [-1.52, 1.51]	-1.86 * [-3.46, -0.27]
教育レベル	-1.65 [-4.02, 0.72]	-2.66 * [-5.18, -0.13]	2.62 * [0.26, 4.98]	0.17 [-2.23, 2.57]	-0.11 [-2.66, 2.44]
回答者数	381	378	375	364	369
R^2	0.118	0.118	0.247	0.227	0.078
R^2 Adj.	0.106	0.106	0.236	0.216	0.066

注：2012 年衆院選後の東大・朝日有権者調査を用いて分析。括弧内は 95 % 信頼区間。

+ $p < 0.1$; * $p < 0.05$; ** $p < 0.01$; *** $p < 0.001$

4.2 2020年独自調査

表 A.23: 主要政党と菅首相に対する好感度

	自民	菅	立憲	共産	維新
切片	5.46 *** [5.10, 5.83]	6.04 *** [5.66, 6.42]	3.91 *** [3.57, 4.26]	3.82 *** [3.46, 4.19]	4.88 *** [4.53, 5.24]
対外的脅威の認知	0.15 * [0.02, 0.28]	0.15 * [0.02, 0.28]	0.03 [-0.10, 0.15]	-0.05 [-0.17, 0.08]	0.20 ** [0.07, 0.32]
政策距離の認識	-0.95 *** [-1.08, -0.83]	-0.84 *** [-0.97, -0.72]	-1.07 *** [-1.18, -0.96]	-0.96 *** [-1.07, -0.85]	-0.97 *** [-1.12, -0.82]
女性	-0.23 + [-0.46, 0.01]	0.09 [-0.15, 0.33]	0.14 [-0.08, 0.36]	0.02 [-0.22, 0.26]	-0.24 * [-0.47, -0.01]
年齢層	0.05 [-0.03, 0.12]	-0.01 [-0.09, 0.07]	0.17 *** [0.10, 0.24]	0.11 ** [0.03, 0.19]	0.11 ** [0.03, 0.18]
大学卒	0.23 + [-0.01, 0.47]	0.01 [-0.24, 0.26]	0.31 ** [0.09, 0.52]	0.19 [-0.04, 0.43]	0.26 * [0.03, 0.49]
回答者数	1500	1500	1500	1500	1500
R^2	0.139	0.106	0.224	0.201	0.107
R^2 Adj.	0.136	0.103	0.222	0.198	0.104

注：2020年独自調査を用いて分析。括弧内は95%信頼区間。⁺p<0.1; *p<0.05;

p<0.01; *p<0.001

第5章 中道層の傍観

1 回帰分析の結果の詳細

1.1 東大・朝日調査

表 A.24: 外交・安全保障の政策位置と投票参加

	2003年	2009年	2012年	2014年	2017年
切片	0.49 *** [0.42, 0.57]	0.65 *** [0.59, 0.70]	0.43 *** [0.37, 0.50]	0.36 *** [0.28, 0.43]	0.32 *** [0.25, 0.39]
政策位置の方向	-0.01 [-0.03, 0.02]	0.00 [-0.02, 0.02]	-0.01 [-0.03, 0.01]	-0.01 [-0.04, 0.01]	-0.01 [-0.04, 0.01]
政策位置の強度	0.01 [-0.03, 0.05]	0.01 [-0.01, 0.04]	0.05 ** [0.02, 0.08]	0.06 ** [0.02, 0.10]	0.06 ** [0.02, 0.10]
女性	-0.01 [-0.05, 0.04]	-0.02 [-0.05, 0.02]	-0.02 [-0.06, 0.02]	0.00 [-0.04, 0.04]	-0.03 [-0.07, 0.01]
大学卒	0.02 [-0.03, 0.07]	0.06 ** [0.02, 0.10]	0.08 *** [0.03, 0.12]	0.11 *** [0.06, 0.16]	0.03 [-0.01, 0.08]
年齢層	0.08 *** [0.06, 0.10]	0.04 *** [0.03, 0.05]	0.05 *** [0.03, 0.06]	0.05 *** [0.04, 0.06]	0.07 *** [0.05, 0.08]
支持政党あり	0.08 *** [0.03, 0.12]	0.08 *** [0.05, 0.12]	0.17 *** [0.13, 0.21]	0.14 *** [0.09, 0.18]	0.14 *** [0.09, 0.20]
回答者数	1084	1933	1824	1761	1707
R^2	0.116	0.055	0.083	0.074	0.102
R^2 Adj.	0.112	0.052	0.080	0.071	0.098

注：東大・朝日有権者調査を用いて分析。本書の図 5.5 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。括弧内は 95 %信頼区間。⁺p<0.1; *p<0.05;

p<0.01; *p<0.001

表 A.25: 経済の政策位置と投票参加

	2003年	2009年	2012年	2014年	2017年
切片	0.51 *** [0.43, 0.58]	0.64 *** [0.58, 0.69]	0.46 *** [0.40, 0.53]	0.37 *** [0.30, 0.45]	0.34 *** [0.27, 0.41]
政策位置の方向	-0.01 [-0.04, 0.02]	-0.01 [-0.03, 0.02]	0.00 [-0.03, 0.02]	-0.04 ** [-0.07, -0.01]	-0.01 [-0.05, 0.02]
政策位置の強度	0.00 [-0.05, 0.04]	0.04 * [0.00, 0.07]	0.02 [-0.03, 0.06]	0.04 + [0.00, 0.08]	0.01 [-0.03, 0.06]
女性	-0.01 [-0.05, 0.03]	-0.02 [-0.05, 0.01]	-0.02 [-0.06, 0.02]	0.00 [-0.04, 0.04]	-0.03 [-0.07, 0.02]
大学卒	0.02 [-0.04, 0.07]	0.06 ** [0.02, 0.10]	0.08 *** [0.04, 0.13]	0.11 *** [0.06, 0.16]	0.04 + [0.00, 0.09]
年齢層	0.08 *** [0.06, 0.10]	0.04 *** [0.03, 0.05]	0.05 *** [0.03, 0.06]	0.05 *** [0.04, 0.06]	0.07 *** [0.06, 0.08]
支持政党あり	0.08 ** [0.03, 0.12]	0.08 *** [0.05, 0.12]	0.16 *** [0.12, 0.21]	0.15 *** [0.10, 0.20]	0.14 *** [0.09, 0.20]
回答者数	1059	1911	1814	1736	1683
R^2	0.109	0.056	0.077	0.076	0.098
R^2 Adj.	0.104	0.053	0.073	0.073	0.095

注：東大・朝日有権者調査を用いて分析。本書の図 5.6 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。括弧内は 95 %信頼区間。+ $p < 0.1$; * $p < 0.05$;

** $p < 0.01$; *** $p < 0.001$

1.2 JES 調査

表 A.26: 政策位置と投票参加

	2001年	2003年	2004年	2005年	2007年	2009年	2010年	2012年	2013年	2014年	2016年
切片	0.51 *** [0.44, 0.59]	0.71 *** [0.65, 0.77]	0.62 *** [0.55, 0.68]	0.76 *** [0.71, 0.82]	0.41 *** [0.33, 0.48]	0.83 *** [0.78, 0.88]	0.68 *** [0.62, 0.73]	0.42 *** [0.35, 0.49]	0.47 *** [0.41, 0.53]	0.28 *** [0.21, 0.35]	0.51 *** [0.46, 0.57]
政策位置の方向	0.00 [-0.01, 0.01]	-0.01 [-0.02, 0.00]	0.00 [-0.03, 0.02]	-0.01 [-0.03, 0.01]	-0.01 [-0.03, 0.01]	0.00 [-0.01, 0.01]	0.00 [-0.01, 0.02]	0.03 ** [0.01, 0.04]	-0.02 * [-0.03, 0.00]	-0.04 *** [-0.06, -0.02]	-0.02 * [-0.04, 0.00]
政策位置の強度	0.01 [-0.01, 0.04]	0.01 [0.00, 0.03]	0.02 [-0.02, 0.07]	0.01 [-0.03, 0.04]	-0.02 [-0.05, 0.01]	-0.01 [-0.02, 0.01]	0.02 [-0.01, 0.04]	0.04 ** [0.01, 0.07]	0.05 *** [0.02, 0.08]	0.09 *** [0.06, 0.12]	0.08 *** [0.05, 0.11]
女性	0.01 [-0.02, 0.05]	-0.02 [-0.04, 0.01]	-0.01 [-0.04, 0.02]	-0.01 [-0.04, 0.01]	-0.02 [-0.06, 0.02]	0.00 [-0.03, 0.02]	-0.02 [-0.05, 0.01]	-0.01 [-0.04, 0.02]	-0.02 [-0.04, 0.01]	-0.07 *** [-0.10, -0.04]	-0.03 * [-0.06, 0.00]
大学卒	0.05 +	0.04 *	0.06 **	0.03	0.07 **	0.03 *	0.03	0.05 **	0.04 *	0.08 ***	0.03 *
年齢層	[0.00, 0.09] 0.01 ***	[0.00, 0.08] 0.00 ***	[0.02, 0.10] 0.00 ***	[-0.01, 0.06] 0.00 ***	[0.02, 0.12] 0.01 ***	[0.00, 0.06] 0.00 ***	[-0.01, 0.06] 0.00 ***	[0.02, 0.08] 0.01 ***	[0.01, 0.06] 0.01 ***	[0.04, 0.11] 0.01 ***	[0.00, 0.06] 0.00 ***
支持政党あり	[0.00, 0.01] 0.09 ***	[0.00, 0.00] 0.07 ***	[0.00, 0.00] 0.09 ***	[0.00, 0.00] 0.11 ***	[0.01, 0.01] 0.09 ***	[0.00, 0.00] 0.04 ***	[0.00, 0.00] 0.09 ***	[0.00, 0.01] 0.12 ***	[0.00, 0.01] 0.10 ***	[0.01, 0.01] 0.11 ***	[0.00, 0.01] 0.11 ***
	[0.05, 0.13]	[0.04, 0.10]	[0.05, 0.12]	[0.08, 0.15]	[0.05, 0.13]	[0.02, 0.06]	[0.06, 0.12]	[0.08, 0.16]	[0.07, 0.13]	[0.07, 0.14]	[0.08, 0.14]
回答者数	1201	1662	1716	1356	1595	1521	1564	2213	2451	2786	2168
R ²	0.099	0.048	0.058	0.062	0.085	0.028	0.066	0.100	0.113	0.098	0.104
F ² Adj.	0.094	0.045	0.055	0.058	0.081	0.024	0.062	0.098	0.111	0.096	0.102

注：JES 調査を用いて分析。本書の図 5.7 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。

括弧内は 95 % 信頼区間。+ p<0.1; * p<0.05; ** p<0.01; *** p<0.001

表 A.27: 政策位置と選挙運動への参加

	2003年	2005年	2007年	2009年	2010年	2012年	2013年	2014年	2016年
切片	0.17 *** [0.07, 0.27]	0.20 *** [0.09, 0.31]	0.11 * [0.02, 0.20]	0.03 [-0.06, 0.13]	0.09 * [0.01, 0.18]	-0.06 * [-0.12, -0.01]	-0.10 ** [-0.18, -0.03]	-0.08 ** [-0.14, -0.03]	-0.14 *** [-0.21, -0.08]
政策位置の方向	0.00 [-0.02, 0.01]	-0.02 [-0.06, 0.03]	0.00 [-0.02, 0.02]	0.00 [-0.02, 0.02]	0.00 [-0.02, 0.03]	0.00 [-0.02, 0.01]	-0.02 + [-0.04, 0.00]	-0.02 * [-0.03, 0.00]	-0.01 [-0.03, 0.01]
政策位置の強度	0.03 * [0.00, 0.06]	0.04 [-0.04, 0.12]	0.06 *** [0.02, 0.09]	0.07 *** [0.03, 0.10]	0.02 [-0.01, 0.06]	0.01 [-0.01, 0.04]	0.05 ** [0.02, 0.09]	0.04 ** [0.01, 0.06]	0.04 * [0.01, 0.07]
女性	-0.01 [-0.06, 0.03]	-0.02 [-0.08, 0.03]	-0.04 + [-0.09, 0.01]	-0.02 [-0.07, 0.02]	-0.06 ** [-0.10, -0.01]	-0.05 *** [-0.07, -0.02]	-0.07 *** [-0.11, -0.04]	-0.02 [-0.05, 0.01]	-0.04 * [-0.07, 0.00]
大卒卒	0.00 [-0.06, 0.06]	0.01 [-0.06, 0.08]	0.03 [-0.03, 0.09]	0.04 [-0.02, 0.09]	0.03 [-0.02, 0.09]	0.01 [-0.01, 0.04]	-0.03 + [-0.07, 0.01]	0.00 [-0.03, 0.03]	0.01 [-0.02, 0.05]
年齢層	0.00 [0.00, 0.00]	0.00 [0.00, 0.00]	0.00 [0.00, 0.00]	0.00 * [0.00, 0.00]	0.00 + [0.00, 0.00]	0.00 *** [0.00, 0.00]	0.01 *** [0.01, 0.01]	0.00 *** [0.00, 0.00]	0.01 *** [0.00, 0.01]
支持政党あり	0.09 *** [0.04, 0.14]	0.12 *** [0.05, 0.18]	0.12 *** [0.07, 0.16]	0.07 ** [0.03, 0.12]	0.09 *** [0.05, 0.14]	0.05 ** [0.02, 0.09]	0.11 *** [0.07, 0.15]	0.05 *** [0.02, 0.08]	0.09 *** [0.06, 0.13]
回答者数	1663	1356	1596	1522	1565	2501	2499	2786	2162
R ²	0.011	0.013	0.034	0.028	0.026	0.035	0.106	0.040	0.081
R ² Adj.	0.008	0.009	0.030	0.024	0.023	0.032	0.104	0.038	0.078

注：JES 調査を用いて分析。本書の図 5.8 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。
括弧内は 95 %信頼区間。+ p<0.1; * p<0.05; ** p<0.01; *** p<0.001

表 A.28: 政策位置とシステム支持行動への参加

	2003年	2005年	2007年	2009年	2010年	2012年	2013年	2014年	2016年
切片	0.22 *** [0.11, 0.33]	0.23 *** [0.11, 0.36]	0.16 ** [0.06, 0.26]	0.28 *** [0.17, 0.39]	0.25 *** [0.15, 0.36]	-0.05 [-0.13, 0.02]	-0.04 [-0.12, 0.04]	-0.05 [-0.12, 0.01]	-0.10 * [-0.17, -0.02]
政策位置の方向	0.02 * [0.00, 0.04]	0.00 [-0.04, 0.05]	0.01 [-0.01, 0.03]	0.02 + [0.00, 0.05]	0.02 [0.00, 0.05]	0.01 [-0.01, 0.03]	-0.01 [-0.03, 0.01]	-0.01 [-0.02, 0.01]	-0.01 [-0.04, 0.01]
政策位置の強度	0.00 [-0.03, 0.04]	0.05 [-0.03, 0.14]	0.03 [-0.01, 0.07]	0.05 * [0.01, 0.09]	0.03 [-0.01, 0.07]	0.01 [-0.02, 0.04]	0.01 [-0.02, 0.05]	0.01 [-0.02, 0.04]	0.01 [-0.03, 0.05]
女性	0.00 [-0.05, 0.05]	-0.06 * [-0.11, 0.00]	-0.01 [-0.06, 0.05]	-0.01 [-0.06, 0.05]	-0.02 [-0.07, 0.03]	-0.05 ** [-0.09, -0.02]	-0.07 *** [-0.11, -0.03]	-0.03 + [-0.06, 0.00]	-0.05 * [-0.09, -0.01]
大学卒	0.01 [-0.06, 0.08]	0.08 * [0.01, 0.15]	0.10 ** [0.03, 0.16]	0.05 [-0.02, 0.11]	0.01 [-0.06, 0.07]	0.00 [-0.03, 0.04]	-0.03 [-0.07, 0.01]	0.00 [-0.04, 0.03]	0.00 [-0.04, 0.04]
年齢層	0.00 * [0.00, 0.00]	0.00 * [0.00, 0.01]	0.00 *** [0.00, 0.01]	0.00 [0.00, 0.00]	0.00 * [0.00, 0.00]	0.00 *** [0.00, 0.00]	0.01 *** [0.01, 0.01]	0.01 *** [0.01, 0.01]	0.01 *** [0.01, 0.01]
支持政党あり	0.07 * [0.01, 0.12]	0.07 * [0.00, 0.14]	0.04 [-0.01, 0.09]	0.07 * [0.01, 0.12]	0.06 * [0.00, 0.11]	0.10 *** [0.05, 0.14]	0.04 + [-0.01, 0.08]	0.02 [-0.01, 0.05]	0.06 ** [0.02, 0.10]
回答者数	1663	1356	1596	1522	1565	2501	2499	2786	2162
R ²	0.012	0.022	0.026	0.016	0.015	0.044	0.106	0.048	0.091
R ² Adj.	0.009	0.018	0.022	0.012	0.011	0.042	0.104	0.046	0.088

注：JES 調査を用いて分析。本書の図 5.9 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。括弧内は 95 % 信頼区間。+ p<0.1; * p<0.05; ** p<0.01; *** p<0.001

表 A.29: 政策位置とエリート挑戦行動への参加

	2003年	2005年	2007年	2009年	2010年	2012年	2013年	2014年	2016年
切片	0.00 [-0.05, 0.05]	-0.04 [-0.10, 0.02]	0.03 [-0.01, 0.07]	-0.02 [-0.07, 0.03]	0.00 [-0.03, 0.04]	-0.03 [-0.07, 0.02]	-0.03 + [-0.07, 0.01]	-0.04 ** [-0.06, -0.01]	-0.05 ** [-0.08, -0.02]
政策位置の方向	-0.01 [-0.01, 0.00]	-0.02 [-0.04, 0.01]	0.00 [-0.01, 0.01]	0.00 [-0.01, 0.01]	-0.01 * [-0.02, 0.00]	-0.03 *** [-0.04, -0.02]	-0.02 ** [-0.03, -0.01]	-0.02 *** [-0.03, -0.01]	-0.02 *** [-0.03, -0.01]
政策位置の強度	0.01 + [0.00, 0.03]	0.07 *** [0.03, 0.11]	0.01 [-0.01, 0.02]	0.01 [0.00, 0.03]	0.01 [-0.01, 0.02]	0.03 *** [0.01, 0.05]	0.03 *** [0.01, 0.05]	0.04 *** [0.02, 0.05]	0.03 *** [0.01, 0.04]
女性	-0.03 ** [-0.05, -0.01]	-0.02 + [-0.05, 0.00]	-0.03 ** [-0.05, -0.01]	-0.02 + [-0.04, 0.00]	-0.03 ** [-0.04, -0.01]	-0.03 ** [-0.05, -0.01]	-0.04 *** [-0.06, -0.02]	-0.01 [-0.02, 0.00]	-0.02 * [-0.03, 0.00]
大学卒	0.00 [-0.03, 0.03]	0.02 [-0.02, 0.05]	-0.03 + [-0.06, 0.00]	0.00 [-0.03, 0.03]	0.00 [-0.02, 0.02]	0.00 [-0.02, 0.02]	-0.01 [-0.02, 0.01]	0.01 + [0.00, 0.02]	0.00 [-0.01, 0.02]
年齢層	0.00 [0.00, 0.00]	0.00 * [0.00, 0.00]	0.00 [0.00, 0.00]	0.00 * [0.00, 0.00]	0.00 * [0.00, 0.00]	0.00 *** [0.00, 0.00]	0.00 *** [0.00, 0.00]	0.00 * [0.00, 0.00]	0.00 *** [0.00, 0.00]
支持政党あり	0.03 * [0.00, 0.05]	0.03 + [0.00, 0.06]	0.03 * [0.00, 0.05]	0.02 + [0.00, 0.04]	0.01 [-0.01, 0.03]	0.02 [-0.01, 0.04]	0.01 [-0.01, 0.03]	0.02 ** [0.01, 0.03]	0.01 + [0.00, 0.03]
回答者数	1663	1356	1596	1522	1565	2501	2499	2786	2162
R ²	0.015	0.024	0.013	0.012	0.012	0.030	0.032	0.033	0.032
F ² Adj.	0.011	0.019	0.009	0.008	0.008	0.027	0.030	0.030	0.029

注：JES 調査を用いて分析。本書の図 5.10 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。
括弧内は 95 %信頼区間。+ p<0.1; * p<0.05; ** p<0.01; *** p<0.001

表 A.30: 政策位置とオンラインでの政治的意見の表明

	2003年	2005年	2007年	2009年	2010年	2012年	2013年	2014年	2016年
切片	0.04 ** [0.02, 0.07]	-0.01 [-0.03, 0.02]	0.04 ** [0.01, 0.07]	0.02 [-0.01, 0.04]	0.03 ** [0.01, 0.06]	0.15 *** [0.11, 0.19]	0.14 *** [0.10, 0.18]	-0.01 [-0.05, 0.03]	0.08 *** [0.03, 0.12]
政策位置の方向	0.00 + [-0.01, 0.00]	0.00 [-0.02, 0.01]	0.00 [-0.01, 0.00]	0.00 [0.00, 0.01]	0.00 [0.00, 0.01]	0.01 [-0.01, 0.02]	0.01 ** [0.00, 0.03]	0.00 [-0.02, 0.01]	0.00 [-0.01, 0.01]
政策位置の強度	0.00 [-0.01, 0.01]	0.02 + [0.00, 0.04]	0.01 [0.00, 0.02]	0.00 [-0.01, 0.01]	0.00 [-0.01, 0.01]	0.03 *** [0.01, 0.05]	0.05 *** [0.03, 0.07]	0.05 *** [0.03, 0.07]	0.06 *** [0.04, 0.09]
女性	-0.01 [-0.02, 0.00]	-0.01 [-0.02, 0.01]	-0.03 *** [-0.04, -0.01]	-0.01 [-0.02, 0.01]	-0.01 [-0.02, 0.01]	-0.03 ** [-0.05, -0.01]	-0.03 ** [-0.05, -0.01]	-0.02 [-0.04, 0.00]	-0.02 + [-0.04, 0.00]
大学卒	0.01 [-0.01, 0.02]	0.03 *** [0.02, 0.05]	0.03 ** [0.01, 0.04]	0.01 + [0.00, 0.03]	0.02 ** [0.01, 0.03]	0.01 [-0.01, 0.03]	0.00 [-0.02, 0.01]	0.02 [-0.01, 0.04]	0.02 + [0.00, 0.04]
年齢層	0.00 ** [0.00, 0.00]	0.00 [0.00, 0.00]	0.00 * [0.00, 0.00]	0.00 [0.00, 0.00]	0.00 * [0.00, 0.00]	0.00 *** [0.00, 0.00]	0.00 *** [0.00, 0.00]	0.00 * [0.00, 0.00]	0.00 ** [0.00, 0.00]
支持政党あり	0.01 [0.00, 0.02]	0.01 [-0.01, 0.02]	0.01 [0.00, 0.03]	0.01 [0.00, 0.02]	0.00 [-0.02, 0.01]	0.02 [-0.01, 0.04]	0.01 [-0.01, 0.03]	0.03 * [0.01, 0.05]	0.00 [-0.02, 0.02]
回答者数	1663	1356	1596	1522	1565	2501	2499	2786	2162
R ²	0.014	0.021	0.027	0.006	0.012	0.032	0.040	0.022	0.026
R ² Adj.	0.010	0.016	0.023	0.002	0.008	0.029	0.038	0.020	0.024

注：JES 調査を用いて分析。本書の図 5.11 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。括弧内は 95 % 信頼区間。+ p<0.1; * p<0.05; ** p<0.01; *** p<0.001

第 6 章 人事パターンの変容

1 部会ごとの自民党議員の記述統計

表 A.31: 小泉政権期の若手議員の平均値

	党全体	外交／国防部会	御三家部会
政策位置 (外交・安保)	0.80	0.85	0.74
政策位置 (経済)	0.16	0.27	0.06
得票マージン	12.7%	14.8%	13.2%
当選回数	3.00	2.34	2.41
人口密度 (万人/ km^2)	0.25	0.19	0.20

注：第 2 次小泉内閣から第 3 次小泉改造内閣までを対象としている。ここでの「党全体」は当選回数 6 回以下の議員を対象に集計した。各部会では役職に就いている議員の平均値を集計した。

表 A.32: 谷垣総裁期の若手議員の平均値

	党全体	外交／国防部会	御三家部会
政策位置 (外交・安保)	1.03	0.99	1.08
政策位置 (経済)	0.49	0.72	0.79
得票マージン	2.6%	12.6%	0.8%
当選回数	3.95	2.89	2.71
人口密度 (万人/ km^2)	0.24	0.05	0.15

注：2009 年から 2011 年までの谷垣総裁時代を対象としている。ここでの「党全体」は当選回数 6 回以下の議員を対象に集計した。各部会では役職に就いている議員の平均値を集計した。

表 A.33: 第2次安倍政権期の若手議員の平均値

	党全体	外交／国防部会	御三家部会
政策位置 (外交・安保)	1.04	1.28	1.01
政策位置 (経済)	0.57	0.66	0.62
得票マージン	14.0%	8.7%	11.7%
当選回数	2.78	2.08	2.09
人口密度 (万人/ km^2)	0.28	0.41	0.22

注：第2次安倍内閣から第3次安倍第2次改造内閣までを対象としている。ここでの「党全体」は当選回数6回以下の議員を対象に集計した。各部会では役職に就いている議員の平均値を集計した。

2 常任委員会ごとの自民党議員の記述統計

表 A.34: 小泉政権期の所属議員の平均値と分布

	党全体	外務／安全保障	農水／経産／国交
政策位置 (外交・安保)	0.79	0.83	0.80
政策位置 (経済)	0.01	0.05	0.09
法曹出身	4.5%	5.1%	2.2%
地方政治家出身	31.6%	44.2%	37.2%
当選回数	4.20	3.60	3.38
小選挙区選出	72.5%	77.0%	69.9%
比例復活	15.3%	7.4%	17.1%
人口密度 (万人/ km^2)	0.24	0.21	0.22

注：第158回国会から第164回国会までを対象としている。各委員会に所属した議員を対象に集計した。

表 A.35: 野党時代の所属議員の平均値と分布

	党全体	外務／安全保障	農水／経産／国交
政策位置 (外交・安保)	1.00	1.02	1.00
政策位置 (経済)	0.49	0.61	0.61
法曹出身	5.1%	6.9%	0.0%
地方政治家出身	33.3%	28.2%	42.1%
当選回数	5.40	4.82	4.53
小選挙区選出	53.5%	67.2%	56.5%
比例復活	38.0%	18.3%	35.1%
人口密度 (万人/ km^2)	0.20	0.12	0.12

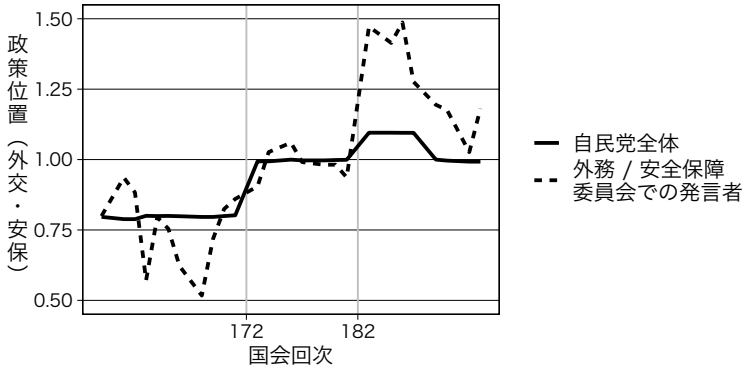
注：第 173 回国会から第 181 回国会までを対象としている。各委員会に所属した議員を対象に集計した。

表 A.36: 第 2 次安倍政権期の所属議員の平均値と分布

	党全体	外務／安全保障	農水／経産／国交
政策位置 (外交・安保)	1.05	1.17	1.01
政策位置 (経済)	0.57	0.50	0.69
法曹出身	5.8%	5.0%	3.1%
地方政治家出身	33.0%	26.6%	44.4%
当選回数	3.87	3.27	2.59
小選挙区選出	78.6%	79.4%	71.7%
比例復活	15.6%	15.9%	20.8%
人口密度 (万人/ km^2)	0.27	0.36	0.21

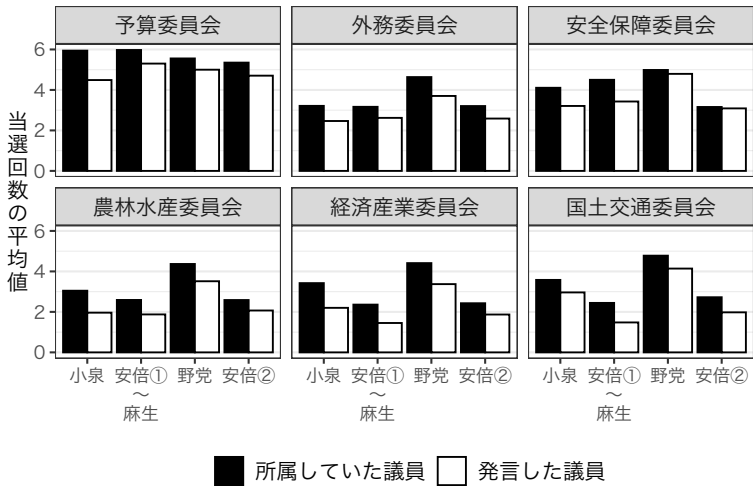
注：第 182 回国会から第 193 回国会までを対象としている。各委員会に所属した議員を対象に集計した。

図 A.3: 外務／安全保障委員会で発言した議員の政策位置



注：政策位置は値が大きいほど右派的な外交・安全保障政策を志向している。

図 A.4: 主な常任委員会で活動した議員の当選回数



■ 所属していた議員 □ 発言した議員

3 回帰分析の結果の詳細

3.1 自民党議員の部会活動

表 A.37: 外交／国防部会への割り当て

	小泉	野党	第2次安倍
切片	-0.01 [-0.07; 0.04]	0.24 ⁺ [-0.05; 0.52]	-0.15 ^{***} [-0.23; -0.06]
政策位置 (外交・安保)	0.02 [-0.03; 0.08]	-0.01 [-0.15; 0.13]	0.15 ^{***} [0.07; 0.24]
得票マージン (10% 差)	0.01 [-0.01; 0.02]	0.04 ⁺ [-0.01; 0.08]	0.00 [-0.01; 0.02]
当選2回	0.18 ^{***} [0.10; 0.27]	-0.12 [-0.45; 0.21]	0.12 ^{***} [0.05; 0.18]
当選3回	0.13 ^{**} [0.05; 0.21]	-0.21 [-0.51; 0.09]	0.04 [-0.03; 0.12]
当選4回	-0.00 [-0.02; 0.02]	-0.16 [-0.47; 0.16]	-0.03 [-0.08; 0.02]
当選5回	-0.01 [-0.03; 0.02]	-0.21 [-0.50; 0.08]	-0.02 [-0.07; 0.04]
当選6回	-0.01 [-0.05; 0.02]	-0.25 ⁺ [-0.54; 0.03]	-0.04 [-0.09; 0.01]
人口密度 (万人/ km^2)	-0.02 [-0.08; 0.03]	-0.03 [-0.08; 0.01]	0.04 [-0.02; 0.10]
のべ議員数	426	223	869
R ²	0.12	0.11	0.11
R ² Adj.	0.10	0.07	0.09

注：本書の図 6.3 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。括弧内は 95 % 信頼区間。⁺p<0.1; *p<0.05; **p<0.01; ***p<0.001

表 A.38: 御三家の部会（農林水産・経済産業・国土交通）への割り当て

	小泉	野党	第 2 次安倍
切片	0.01	0.34 ⁺	0.06 [*]
	[-0.05; 0.07]	[-0.04; 0.72]	[0.00; 0.11]
政策位置 (経済)	-0.00	0.04	-0.00
	[-0.04; 0.03]	[-0.03; 0.12]	[-0.04; 0.04]
得票マージン (10% 差)	-0.00	-0.03	0.02 ^{**}
	[-0.04; 0.03]	[-0.07; 0.02]	[0.01; 0.04]
当選 2 回	0.49 ^{***}	0.21	0.43 ^{***}
	[0.37; 0.60]	[-0.22; 0.63]	[0.35; 0.51]
当選 3 回	0.30 ^{***}	-0.00	0.18 ^{***}
	[0.19; 0.42]	[-0.42; 0.41]	[0.08; 0.28]
当選 4 回	0.05	-0.26	-0.03
	[-0.02; 0.11]	[-0.66; 0.14]	[-0.11; 0.05]
当選 5 回	0.00	-0.29	-0.09 ^{**}
	[-0.04; 0.04]	[-0.68; 0.11]	[-0.15; -0.03]
当選 6 回	-0.01	-0.30	-0.09 ^{**}
	[-0.06; 0.05]	[-0.69; 0.08]	[-0.14; -0.03]
人口密度 (万人/ km^2)	-0.06	-0.01	-0.09 [*]
	[-0.13; 0.01]	[-0.10; 0.09]	[-0.17; -0.01]
のべ議員数	424	220	865
R ²	0.30	0.23	0.28
R ² Adj.	0.28	0.19	0.27

注：本書の図 6.5 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。括弧内は 95 % 信頼区間。⁺p<0.1; ^{*}p<0.05; ^{**}p<0.01; ^{***}p<0.001

3.2 自民党議員の国会内活動

表 A.39: 外務／安全保障委員会への割り当て

	所属			発言		
	小泉	野党	第2次安倍	小泉	野党	第2次安倍
切片	0.19*	0.12	-0.11	0.19**	0.10	-0.02
	[0.03; 0.35]	[-0.16; 0.40]	[-0.30; 0.08]	[0.07; 0.30]	[-0.06; 0.25]	[-0.16; 0.11]
政策位置 (外交・安保)	0.03	0.01	0.16**	-0.00	-0.02	0.10**
	[-0.04; 0.09]	[-0.17; 0.20]	[0.06; 0.26]	[-0.04; 0.04]	[-0.15; 0.11]	[0.04; 0.16]
法曹出身	0.09	0.03	0.01	-0.02	0.01	0.02
	[-0.16; 0.34]	[-0.24; 0.30]	[-0.12; 0.14]	[-0.09; 0.05]	[-0.12; 0.15]	[-0.05; 0.08]
地方政治家出身	0.07	-0.05	-0.04	0.04	0.01	-0.03*
	[-0.02; 0.15]	[-0.14; 0.05]	[-0.10; 0.02]	[-0.02; 0.10]	[-0.07; 0.08]	[-0.06; -0.01]
当選回数	-0.01	0.04	0.04 ⁺	-0.01	0.02	0.00
	[-0.04; 0.02]	[-0.04; 0.11]	[-0.00; 0.07]	[-0.03; 0.01]	[-0.02; 0.07]	[-0.01; 0.02]
当選回数の二乗	0.00	-0.00	-0.00**	0.00	-0.00	-0.00
	[-0.00; 0.00]	[-0.01; 0.00]	[-0.01; -0.00]	[-0.00; 0.00]	[-0.01; 0.00]	[-0.00; 0.00]
小選挙区選出	-0.03	-0.01	0.02	-0.05	0.00	-0.03
	[-0.17; 0.10]	[-0.26; 0.23]	[-0.11; 0.16]	[-0.14; 0.05]	[-0.16; 0.16]	[-0.15; 0.10]
比例復活	-0.14*	-0.10	0.00	-0.10*	-0.06	-0.04
	[-0.28; -0.00]	[-0.35; 0.14]	[-0.14; 0.14]	[-0.19; -0.00]	[-0.23; 0.11]	[-0.17; 0.09]
人口密度 (万人/km ²)	-0.03	-0.05	0.04	-0.00	-0.01	0.05 ⁺
	[-0.10; 0.03]	[-0.13; 0.03]	[-0.04; 0.13]	[-0.05; 0.04]	[-0.08; 0.06]	[-0.00; 0.10]
のべ議員数	1458	988	2923	956	758	1715
R ²	0.03	0.04	0.05	0.04	0.05	0.06
R ² Adj.	0.02	0.02	0.04	0.03	0.03	0.05

注：本書の図 6.7 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。括弧内は 95% 信頼区間。⁺p<0.1; *p<0.05; **p<0.01; ***p<0.001

表 A.40: 御三家の委員会（農林水産・経済産業・国土交通）への割り当て

	所属			発言		
	小泉	野党	第 2 次安倍	小泉	野党	第 2 次安倍
切片	0.23** [0.08; 0.39]	0.54* [0.10; 0.98]	0.36*** [0.16; 0.56]	0.36*** [0.24; 0.48]	0.52*** [0.21; 0.83]	0.26*** [0.15; 0.37]
政策位置 (経済)	0.04 [-0.01; 0.09]	0.03 [-0.07; 0.13]	0.05+ [-0.00; 0.09]	0.02 [-0.01; 0.06]	0.05 [-0.01; 0.11]	0.03* [0.00; 0.06]
法曹出身	-0.11 [-0.28; 0.06]	-0.27*** [-0.38; -0.15]	-0.16** [-0.26; -0.06]	-0.06 [-0.20; 0.08]	-0.10+ [-0.21; 0.02]	-0.08** [-0.14; -0.02]
地方政治家出身	0.05 [-0.05; 0.14]	0.12 [-0.03; 0.28]	0.11** [0.03; 0.19]	0.03 [-0.03; 0.10]	0.02 [-0.07; 0.11]	0.06* [0.01; 0.11]
当選回数	-0.01 [-0.05; 0.02]	-0.09+ [-0.18; 0.01]	-0.05* [-0.09; -0.00]	-0.07*** [-0.09; -0.04]	-0.10** [-0.18; -0.03]	-0.07*** [-0.10; -0.05]
当選回数の二乗	-0.00 [-0.00; 0.00]	0.00 [-0.00; 0.01]	0.00 [-0.00; 0.00]	0.00*** [0.00; 0.00]	0.00+ [-0.00; 0.01]	0.00*** [0.00; 0.01]
小選挙区選出	0.11 [-0.03; 0.24]	0.02 [-0.32; 0.37]	0.03 [-0.17; 0.24]	0.07 [-0.02; 0.16]	-0.05 [-0.28; 0.19]	0.11* [0.00; 0.22]
比例復活	0.10 [-0.05; 0.26]	-0.01 [-0.36; 0.33]	0.02 [-0.19; 0.23]	0.05 [-0.05; 0.15]	-0.11 [-0.34; 0.12]	0.06 [-0.05; 0.18]
人口密度 (万人/km ²)	-0.05 [-0.18; 0.08]	-0.12* [-0.23; -0.01]	-0.10* [-0.18; -0.01]	-0.02 [-0.12; 0.08]	-0.03 [-0.09; 0.04]	-0.07** [-0.12; -0.02]
のべ議員数	1452	979	2905	952	751	1705
R ²	0.03	0.10	0.09	0.11	0.18	0.14
R ² Adj.	0.03	0.08	0.09	0.10	0.16	0.13

注：本書の図 6.8 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。括弧内は 95 % 信頼区間。+p<0.1; *p<0.05; **p<0.01; ***p<0.001

4 混合効果ロジスティック回帰モデルでの検証

第6章では、自民党議員が特定の部会や常任委員会に割り当てられる確率をOLSによる線形回帰分析で推定した。しかし、この手法には疑問を抱く者もいるだろう。まず、割り当ての有無のような2値変数を結果変数として扱う際には、線形回帰モデルではなくロジスティック回帰モデルを用いることが多い。また、本書では議員ごとにクラスター化した頑健標準誤差を用いていたが、観察不可能な各議員の属性の違いを取り除くためには、議員ごとの固定効果もしくはランダム効果をモデルに投入することが一般的である。

そこでオンライン付録では、議員ごとのランダム切片を投入した混合効果ロジスティック回帰モデルの推定結果を示す。混合効果ロジスティック回帰モデルの推定結果からも、第2次安倍政権でより右派的な議員が外交／国防部会や外務／安全保障委員会で活動していたことが分かる（部会人事は表A.41、委員会人事は表A.42を参照）。

表 A.41: 外交／国防部会への割り当て（混合効果ロジスティック回帰）

	小泉	野党	第2次安倍
切片	-20.60 + [-43.26, 2.06]	-1.05 [-5.76, 3.65]	-10.57 *** [-13.78, -7.36]
政策位置 (外交・安保)	0.37 [-2.20, 2.95]	-0.29 [-2.25, 1.67]	2.09 *** [0.92, 3.27]
得票マージン (10% 差)	0.17 [-0.43, 0.77]	0.52 + [-0.06, 1.10]	-0.03 [-0.29, 0.24]
当選回数	14.68 [-4.37, 33.74]	-0.96 [-3.72, 1.80]	4.18 *** [1.89, 6.47]
当選回数の二乗	-3.09 [-6.97, 0.78]	0.05 [-0.36, 0.45]	-0.84 *** [-1.29, -0.39]
人口密度 (万人/km ²)	-0.52 [-3.24, 2.19]	-3.96 [-11.75, 3.83]	0.56 [-0.47, 1.59]
人事ごとの固定効果	✓	✓	✓
議員ごとの変量効果	✓	✓	✓
のべ議員数	426	223	869
議員数	249	77	237
BIC	185.8	140.6	433.3

注：括弧内は95%信頼区間。+p<0.1; *p<0.05; **p<0.01; ***p<0.001

表 A.42: 外務/安全保障委員会への割り当て (混合効果ロジスティック回帰)

	所属			発言		
	小泉	野党	第2次安倍	小泉	野党	第2次安倍
切片	-3.42 ** [-5.74, -1.11]	-8.23 * [-15.05, -1.41]	-7.51 *** [-10.09, -4.93]	-1.88 [-4.94, 1.17]	-6.21 * [-11.52, -0.90]	-8.49 *** [-11.51, -5.46]
政策位置 (外交・安保)	-0.45 [-1.55, 0.65]	0.94 [-1.61, 3.48]	1.00 * [0.06, 1.93]	-1.35 [-2.95, 0.26]	-0.03 [-1.95, 1.90]	2.57 *** [1.41, 3.73]
法曹出身	0.16 [-3.27, 3.60]	-0.08 [-4.60, 4.44]	1.13 [-1.70, 3.96]	-1.62 [-7.78, 4.54]	-0.28 [-4.34, 3.78]	0.66 [-1.36, 2.67]
地方政治家出身	0.24 [-1.15, 1.62]	-1.42 [-3.73, 0.89]	-1.25 + [-2.51, 0.00]	-1.63 [-3.98, 0.71]	-0.22 [-1.91, 1.47]	-0.80 [-1.81, 0.21]
当選回数	-0.35 [-0.93, 0.24]	0.87 [-1.11, 2.84]	0.97 ** [0.29, 1.66]	-0.18 [-1.37, 1.01]	1.71 [-0.33, 3.74]	1.18 * [0.23, 2.13]
当選回数の二乗	0.02 [-0.02, 0.07]	-0.09 [-0.26, 0.09]	-0.12 *** [-0.19, -0.05]	-0.02 [-0.15, 0.11]	-0.25 * [-0.49, -0.01]	-0.16 ** [-0.27, -0.04]
小選挙区選出	-1.60 * [-3.17, -0.03]	0.35 [-3.42, 4.12]	-0.07 [-1.97, 1.83]	-2.55 * [-4.68, -0.42]	0.10 [-2.68, 2.88]	-0.46 [-2.29, 1.38]
比例復活	-3.05 ** [-5.21, -0.90]	-1.41 [-6.39, 2.56]	-1.57 + [-3.41, 0.27]	-4.23 ** [-7.35, -1.12]	-1.69 [-4.62, 1.24]	-0.83 [-2.74, 1.08]
人口密度 (万人/km ²)	0.01 [-1.64, 1.65]	-1.09 [-4.03, 1.85]	0.97 [-0.51, 2.45]	0.49 [-1.52, 2.50]	0.01 [-1.85, 1.88]	1.07 * [0.07, 2.06]
会期ごとの固定効果	✓	✓	✓	✓	✓	✓
議員ごとの変数効果	✓	✓	✓	✓	✓	✓
のべ議員数	1458	988	2923	956	758	1715
議員数	328	114	301	322	114	300
BIC	716.0	441.5	1456.9	412.5	399.5	659.6

注: 括弧内は 95% 信頼区間。+ p<0.1; * p<0.05; ** p<0.01; *** p<0.001

第 7 章 政務三役に表れるバランス感覚

1 回帰分析の結果の詳細

1.1 自民党政権の政務三役

表 A.43: 外務もしくは防衛の政務三役への起用

	小泉	第 2 次安倍
切片	-0.01 [-0.06; 0.03]	-0.03 [-0.06; 0.01]
政策位置 (外交・安保)	0.01 [-0.01; 0.04]	0.01 [-0.02; 0.04]
当選回数	0.01 ⁺ [-0.00; 0.02]	0.01 [-0.00; 0.02]
当選回数の二乗	-0.00* [-0.00; -0.00]	-0.00* [-0.00; -0.00]
小選挙区選出	0.03* [0.00; 0.05]	0.03*** [0.01; 0.04]
比例復活	-0.00 [-0.03; 0.02]	0.02 ⁺ [-0.00; 0.03]
人口密度 (万人/ km^2)	-0.03** [-0.04; -0.01]	0.02 [-0.01; 0.06]
のべ議員数	967	1930
R^2	0.02	0.01
R^2 Adj.	0.01	0.00

注：本書の図 7.5 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。括弧内は 95 % 信頼区間。⁺p<0.1; *p<0.05; **p<0.01; ***p<0.001

表 A.44: 農林水産・経済産業・国土交通の政務三役への起用

	小泉	第2次安倍
切片	0.01 [-0.04; 0.05]	-0.01 [-0.03; 0.01]
政策位置 (経済)	0.01 [-0.01; 0.02]	-0.01 [-0.02; 0.00]
当選回数	0.01* [0.00; 0.02]	0.01+ [-0.00; 0.02]
当選回数の二乗	-0.00** [-0.00; -0.00]	-0.00** [-0.00; -0.00]
小選挙区選出	0.00 [-0.04; 0.04]	0.03*** [0.02; 0.05]
比例復活	-0.01 [-0.05; 0.03]	0.02* [0.00; 0.04]
人口密度 (万人/ km^2)	-0.01 [-0.04; 0.02]	-0.00 [-0.02; 0.02]
のべ議員数	961	1919
R^2	0.01	0.01
R^2 Adj.	-0.00	0.00

注：本書の図 7.7 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。括弧内は 95 %信頼区間。+ $p < 0.1$; * $p < 0.05$; ** $p < 0.01$; *** $p < 0.001$

1.2 民主党政権の政務三役

第7章の本文中で民主党政権の人事を検証した際、「自民政権と同じように線形回帰モデルを推定しても、右寄りの議員ほど外務省もしくは防衛省の政務三役に選ばれる確率が高かった」(150頁)と述べた。この点について詳細が気になる読者のために、民主党政権の人事パターンについて線形回帰モデルで推定した結果を表A.45に示しておく。

表 A.45: 民主党政権における政務三役への起用

	外務／防衛	農水／経産／国交
切片	-0.03** [-0.06; -0.01]	-0.04** [-0.07; -0.01]
政策位置 (外交・安保)	0.03** [0.01; 0.05]	
政策位置 (経済)		0.01 [-0.00; 0.03]
当選回数	0.02*** [0.01; 0.03]	0.03*** [0.02; 0.05]
当選回数の二乗	-0.00*** [-0.00; -0.00]	-0.00*** [-0.00; -0.00]
小選挙区選出	0.02** [0.01; 0.03]	0.03** [0.01; 0.05]
比例復活	0.00 [-0.01; 0.01]	0.02* [0.00; 0.05]
人口密度 (万人/ km^2)	-0.02+ [-0.04; 0.00]	-0.03* [-0.06; -0.00]
のべ議員数	2233	2233
R^2	0.03	0.03
R^2 Adj.	0.03	0.03

注：括弧内は95%信頼区間。+ $p < 0.1$; * $p < 0.05$; ** $p < 0.01$; *** $p < 0.001$

1.3 民主党議員の国会内活動

表 A.46: 外務/安全保障委員会への割り当て

	所属						発言	
	小泉	鳩山-野田	安倍 2	安倍 3	小泉	鳩山-野田		安倍 2
切片	0.14 [-0.20; 0.48]	0.08 [-0.03; 0.20]	-0.03 [-0.30; 0.23]	0.11 [-0.17; 0.39]	0.16 [-0.13; 0.44]	0.03 [-0.01; 0.08]	-0.16 [-0.52; 0.21]	0.08 [-0.22; 0.39]
政策位置 (外交・安保)	0.10** [0.03; 0.18]	0.09* [0.01; 0.16]	0.11* [0.00; 0.23]	0.07 [-0.06; 0.19]	0.09** [0.02; 0.15]	0.01 [-0.02; 0.04]	0.12 [-0.04; 0.29]	0.07 [-0.08; 0.23]
法曹出身	-0.02 [-0.13; 0.08]	0.02 [-0.10; 0.14]	-0.08 [-0.20; 0.03]	-0.02 [-0.16; 0.13]	-0.03 [-0.08; 0.02]	0.06 [-0.03; 0.15]	-0.12 [-0.27; 0.04]	-0.08 [-0.23; 0.08]
地方政治家出身	0.03 [-0.06; 0.12]	-0.02 [-0.08; 0.05]	-0.00 [-0.10; 0.09]	-0.08* [-0.17; 0.00]	0.04 [-0.06; 0.14]	-0.01 [-0.04; 0.01]	-0.03 [-0.17; 0.10]	-0.03 [-0.15; 0.08]
当選回数	0.02 [-0.01; 0.06]	0.01 [-0.02; 0.05]	-0.01 [-0.07; 0.05]	-0.04 [-0.13; 0.05]	0.01 [-0.03; 0.04]	-0.01 [-0.02; 0.01]	-0.00 [-0.10; 0.09]	-0.06 [-0.17; 0.05]
当選回数 ² の二乗	-0.00* [-0.01; 0.00]	-0.00 [-0.00; 0.00]	0.00 [-0.00; 0.01]	0.00 [-0.01; 0.01]	-0.00 [-0.00; 0.00]	0.00 [-0.00; 0.00]	0.00 [-0.01; 0.01]	0.00 [-0.00; 0.01]
小選挙区選出	-0.09 [-0.42; 0.24]	-0.02 [-0.14; 0.10]	0.19* [0.00; 0.24]	0.12* [0.00; 0.24]	-0.04 [-0.32; 0.25]	0.00 [-0.05; 0.06]	0.31** [0.08; 0.54]	0.19* [0.04; 0.34]
比例復活	-0.09 [-0.42; 0.24]	-0.03 [-0.16; 0.09]	0.14* [0.02; 0.31]	0.14* [0.03; 0.25]	-0.06 [-0.34; 0.22]	-0.01 [-0.06; 0.04]	0.25* [0.05; 0.44]	0.20** [0.07; 0.33]
人口密度 (万人/km ²)	-0.03 [-0.10; 0.05]	0.06 [-0.03; 0.14]	-0.07 [-0.19; 0.05]	0.01 [-0.16; 0.17]	-0.05 [-0.12; 0.01]	0.01 [-0.02; 0.04]	-0.13 [-0.29; 0.03]	-0.09 [-0.22; 0.05]
のべ議員数	1083	2383	329	428	722	1533	216	280
R ²	0.04	0.03	0.06	0.03	0.05	0.03	0.08	0.04
R ² Adj.	0.03	0.02	0.02	0.00	0.03	0.02	0.03	0.00

注：本書の図 7.11 では、効果量を解釈しやすいように回帰係数を 100 倍してパーセント表記にした。括弧内は 95 %信頼区間。+ p<0.1; * p<0.05; ** p<0.01; *** p<0.001

2 混合効果モデルでの検証

第7章では、特定の政務三役に割り当てられる確率を OLS による線形回帰分析で推定した上で、議員ごとにクラスター化した頑健標準誤差に基づいて仮設検定を行った。しかし、第6章の部会人事や委員会人事と同じく、より厳密な統計手法を用いた場合でも結論が変わらないかが気になる読者もいるだろう。そこでオンライン付録では、議員ごとのランダム切片を投入した混合効果モデルの推定結果を示す。表 A.47 から分かるように、混合効果モデルで推定しても第7章の結論は変わらない。なお、混合効果ロジスティック回帰モデルによる推定も試したものの、一部のパラメータの推定値が収束しなかった。そのため表 A.47 に示したのは線形回帰モデルに基づく推定結果である。

表 A.47: 外務／防衛の政務三役への起用（混合効果モデル）

	自民党政権		民主党政権
	小泉	第2次安倍	
切片	-0.01 [-0.06, 0.04]	-0.02 [-0.08, 0.04]	-0.03 + [-0.07, 0.00]
政策位置 (外交・安保)	0.01 [-0.02, 0.03]	0.00 [-0.03, 0.03]	0.03 ** [0.01, 0.05]
当選回数	0.01 [0.00, 0.02]	0.01 [0.00, 0.02]	0.02 *** [0.01, 0.03]
当選回数の二乗	0.00 [0.00, 0.00]	0.00 [0.00, 0.00]	0.00 *** [0.00, 0.00]
小選挙区選出	0.02 [-0.01, 0.06]	0.02 [-0.02, 0.07]	0.02 [-0.01, 0.05]
比例復活	0.00 [-0.05, 0.04]	0.01 [-0.04, 0.06]	0.00 [-0.03, 0.04]
人口密度 (万人 / km ²)	-0.03 + [-0.05, 0.00]	0.03 + [0.00, 0.05]	-0.02 [-0.04, 0.00]
組閣や改造ごとの固定効果	✓	✓	✓
議員ごとの変量効果	✓	✓	✓
のべ議員数	967	1930	2233
議員数	330	304	294
BIC	-665.0	-1495.9	-2219.7

注：括弧内は 95 % 信頼区間。+p<0.1; *p<0.05; **p<0.01; ***p<0.001

オンライン付録の参考文献

Catalinac, Amy. 2018. “Positioning under Alternative Electoral Systems: Evidence from Japanese Candidate Election Manifestos.” *American Political Science Review* 112(1): 31–48.

三浦麻子・小林哲郎. 2016. 「オンライン調査における努力の最小限化 (Satisfice) を検出する技法：大学生サンプルを用いた検討」『社会心理学研究』32 (2): 123–132.

谷口将紀. 2012. 『政党支持の理論』岩波書店.